

令和4年度

ステージラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

事業報告書

一般財団法人 地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、財政支援、研修・交流、情報提供、調査研究などの事業を実施しております。

地域の文化・芸術活動を担う人材の育成に取り組む「研修交流事業」として、財団設立当初から実施している公立文化施設の事業担当者に向けた「ステージラボ」や、市町村長や文化政策担当者に向けた研修があります。

「ステージラボ」は、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムで、初任者に向けたホール入門コースや、事業企画に取り組む職員に向けた自主事業コースなど、職務内容や経験年数に応じた実践的研修コースを複数実施しています。プログラムは、現場経験の豊富な実務家にコーディネーターを委嘱し作成しており、講師と参加者の双方向型の研修となっています。セミナー、グループ討論、ワークショップ等で構成され、特に実演家による芸術体験ワークショップが充実しています。また、先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し、全国各地との交流を図っていることも特徴のひとつです。

令和4年度は、7月に iichiko 総合文化センター（大分県大分市）で大分セッション、2月にミュージア川崎シンフォニーホール（川崎市）で川崎セッションを開催しました。大分セッションには52名、川崎セッションには39名の方々が全国から参加し、現在抱えるそれぞれの課題の共有や、検討を共におこないました。

本報告書では、令和4年度に開催した大分セッション、川崎セッションの実施状況を報告します。

最後に、事業開催にあたりご協力をいただいたコーディネーター、講師、開催館、ご共催いただいた大分県、川崎市ならびにその他関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

目次

〈本文中の社名、所属、役職等は、事業実施時点のものです〉

I 事業概要	
1 事業概要	3
2 開催実績	4
3 都道府県別参加者数	8
II 令和4年度事業	
1 事業概要	11
2 参加者の属性	12
3 コーディネーター・講師一覧	14
4 スタッフ一覧	16
5 実施日程	17
III ステージラボ 大分セッション	
1 コーディネーター・講師紹介	21
2 研修プログラム	24
3 各コースについて	
(1) ホール入門コース	
総評	28
ゼミ記録	29
(2) 自主事業コース	
総評	34
ゼミ記録	35
(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース	
総評	40
ゼミ記録	42
4 共通プログラム	46
IV ステージラボ 川崎セッション	
1 コーディネーター・講師紹介	49
2 研修プログラム	51
3 各コースについて	
(1) ホール入門コース	
総評	55
ゼミ記録	56
(2) 自主事業コース	
総評	60
ゼミ記録	62
4 共通プログラム	66
V 参加者リスト	
1 ステージラボ 大分セッション	69
2 ステージラボ 川崎セッション	77

I 事業概要

Ⅰ 事業概要

1 事業概要

(1) 事業目的

地域における文化・芸術の創造拠点となる公共ホール・劇場等や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムの実施を通して、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携による効果的な芸術支援（育成）の環境を整える。

(2) 事業内容

① 対象者

公共ホール・劇場等及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員

② 開催回数及び実施時期

原則年度2回。年度の前半及び後半に各1回ずつ

3～4日間程度の集中研修

③ 会場

全国各地の公共ホールや劇場などにおいて実施

(3) 事業の特徴

① 集中ゼミの実施

3～4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成（1セッション2～3コース程度）。また、参加応募時にアンケートを提出いただき、事前に参加者の問題意識や参加ニーズを把握することで、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容となるよう努めている。

③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

⑤ 参加者同士のネットワークづくり

先進的な取り組みを行う公立文化施設を会場として開催し、研修を通じて全国各地から集まった参加者同士の交流を深める。

1 事業概要

2 開催実績

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 23名 音楽コース 23名 演劇ダンスコース 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 18名 音楽コース 19名 演劇コース 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース 21名 ステージ創造環境コース 12名 ステージ鑑賞共感コース 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 23名 音楽コース 33名 演劇コース 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 21名 音楽事業コース 18名 演劇事業コース 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース 17名 ホール運営Ⅰコース 22名 ホール運営Ⅱコース 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース 19名 ホール運営入門コース 20名 自主事業(音楽)コース 15名 自主事業(演劇・ダンス)コース 15名
	世田谷セッション	平成 10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース 17名 ホール入門コース 26名 演劇コース 16名 音楽コース 19名
平成10年度	札幌セッション	平成 10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース 14名 ホール入門コース 20名 演劇コース 15名 音楽コース 20名
	神戸セッション	平成 11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース 15名 ホール入門コース 24名 演劇・ダンスコース 11名 音楽コース 19名
平成11年度	静岡セッション	平成 11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース 25名 ホール運営Ⅰコース 20名 ホール運営Ⅱコース 21名
	高知セッション	平成 12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース 14名 ホール入門コース 20名 自主事業コース 21名 美術コース 15名
平成12年度	金沢セッション	平成 12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 26名 演劇コース 19名 音楽コース 20名 美術コース 16名
	熊本セッション	平成 13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 19名 運営基礎コース 20名 演劇コース 12名 音楽コース 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年9月3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年3月9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年3月6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年12月4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	リゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ 愛知セッション	平成27年1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市中区)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月17日 ～ 2月20日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成27年度	札幌セッション	平成27年 7月 7日 ～ 7月10日	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	43名	ホール入門コース 17名 事業入門コース 10名 音楽コース 16名
	(東京・赤坂開催)	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース 17名
	北九州セッション	平成28年 2月16日 ～ 2月19日	北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	48名	ホール入門コース 20名 音楽コース 15名 演劇コース 13名
平成28年度	上田セッション	平成28年 7月 5日 ～ 7月 8日	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター (長野県上田市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 17名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名
	(東京・赤坂開催)	平成28年10月12日～14日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	豊田セッション	平成29年 2月21日 ～ 2月24日	豊田市民文化会館 (愛知県豊田市)	59名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成29年度	高知セッション	平成29年 7月 4日 ～ 7月 7日	高知県立美術館 (高知県高知市)	41名	ホール入門コース 17名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 10名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成29年10月16日～18日	地域創造会議室	19名	公立ホール・劇場マネージャーコース 19名
	横浜セッション	平成30年 2月20日 ～ 2月23日	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市)	42名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名
平成30年度	滋賀セッション	平成30年 7月 3日 ～ 7月 6日	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県大津市)	56名	ホール入門コース 21名 事業入門コース 21名 自主事業(音楽)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成30年10月16日～18日	地域創造会議室	14名	公立ホール・劇場マネージャーコース 14名
令和元年度	富士見セッション	令和 元年 6月25日 ～ 6月28日	富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ (埼玉県富士見市)	41名	ホール入門コース 22名 自主事業コース 19名
	いわきセッション	令和 2年 2月18日 ～ 2月21日	いわき芸術文化交流館アリオス (福島県いわき市)	44名	ホール入門コース 20名 自主事業(音楽)コース 16名 公立ホール・劇場マネージャーコース 8名
令和2年度	オンラインセッション	令和 3年 2月24日 ～ 2月26日	オンライン	129名	シンポジウム 一部 56名 二部 53名 ワークショッププログラム 20名
令和3年度	豊橋セッション	令和 4年 2月15日 ～ 2月18日	穂の国とよはし芸術劇場PLAT (愛知県豊橋市)	38名	ホール入門コース 13名 自主事業コース 13名 公立ホール・劇場マネージャーコース 12名
令和4年度	大分セッション	令和 4年 7月 5日 ～ 7月 8日	iichiko総合文化センター (大分県大分市)	52名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 21名 公立ホール・劇場マネージャーコース 11名
	川崎セッション	令和 5年 2月18日 ～ 2月21日	ミュージザ川崎シンフォニーホール (神奈川県川崎市)	39名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 19名

3,533 名 (令和4年度終了時点での修了者)

1 事業概要

3 都道府県別参加者数

単位：名

	累計	うち 直近5年間	
			うち 令和4年度
北海道	135	24	8
青森県	20	5	0
岩手県	56	13	2
宮城県	46	5	2
秋田県	11	1	0
山形県	27	8	3
福島県	47	6	1
茨城県	80	16	6
栃木県	27	7	0
群馬県	38	4	0
埼玉県	130	22	1
千葉県	51	6	1
東京都	211	21	5
神奈川県	186	17	5
新潟県	81	3	1
富山県	90	5	2
石川県	39	1	0
福井県	41	5	0
山梨県	8	0	0
長野県	93	16	4
岐阜県	129	3	1
静岡県	141	9	2
愛知県	243	37	3
三重県	64	8	1
滋賀県	77	5	0
京都府	45	2	0
大阪府	120	24	4
兵庫県	162	20	5
奈良県	20	0	0
和歌山県	8	0	0
鳥取県	70	10	3
島根県	43	6	1
岡山県	47	8	3
広島県	119	6	0
山口県	56	3	0
徳島県	29	1	0
香川県	26	1	0
愛媛県	19	2	0
高知県	45	4	1
福岡県	274	44	8
佐賀県	19	1	1
長崎県	94	5	3
熊本県	66	7	5
大分県	74	14	6
宮崎県	44	6	3
鹿児島県	36	2	0
沖縄県	46	0	0
合計	3533	413	91

Ⅱ 令和4年度事業

II 令和4年度事業

1 事業概要

(1) ステージラボ 大分セッション

開催期日	令和4年7月5日(火)～7月8日(金)
開催会場	iichiko 総合文化センター (大分県大分市高砂町2番33号)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：iichiko 総合文化センター、大分県
対象者※	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む。)において、業務経験年数1年半未満程度(開館準備のための組織にあつては年数不問)の職員。 「自主事業コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員。 「公立ホール・劇場マネージャーコース」 公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

(2) ステージラボ 川崎セッション

開催期日	令和5年2月14日(火)～2月17日(金)
開催会場	ミューザ川崎シンフォニーホール (神奈川県川崎市幸区大宮町1310)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：ミューザ川崎シンフォニーホール、川崎市 後援：神奈川県
対象者※	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む。)において、業務経験年数1年半未満程度(開館準備のための組織にあつては年数不問)の職員。 「自主事業コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員。

※指定管理者である民間事業者の職員を含む。

II 令和4年度事業

2 参加者の属性

(1) 大分セッション

コース名	ホール入門	自主事業	公立ホール・劇場 マネージャー	合計
参加者数	20	21	11	52

参考：参加申込者数55名

①都道府県別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
北海道	3	4		7
青森				
岩手	2			2
宮城				
秋田				
山形	1		1	2
福島				
茨城	1	1		2
栃木				
群馬				
埼玉				
千葉				
東京		1		1
神奈川		2	1	3
新潟				
富山				
石川				
福井				
山梨				
長野				
岐阜		1		1
静岡			1	1
愛知	1			1
三重	1			1
滋賀				
京都				
大阪	1	2		3
兵庫	1	1		2
奈良				
和歌山				
鳥取				
島根	1			1
岡山		2	1	3
広島				
山口				
徳島				
香川				
愛媛				
高知			1	1
福岡	1	2	2	5
佐賀	1			1
長崎	2			2
熊本		1	3	4
大分	4	2		6
宮崎		2	1	3
鹿児島				
沖縄				
合計	20	21	11	52

②採用形態別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	4	2	5	11
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	13	17	6	36
施設管理団体（民間事業者）採用職員	2	1		3
その他	1	1		2
合計	20	21	11	52

③性別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
男	4	5	8	17
女	16	16	3	35
合計	20	21	11	52

④年代別

	入門	自主事業	マネージャー	合計
20代	12	11		23
30代	7	9	3	19
40代	1	1	4	6
50代			4	4
合計	20	21	11	52

(2) 川崎セッション

コース名	ホール入門	自主事業	合計
参加者数	20	19	39

参考：参加申込者数46名

①都道府県別

	入門	自主事業	合計
北海道	1		1
青森			
岩手			
宮城	1	1	2
秋田			
山形		1	1
福島	1		1
茨城	1	3	4
栃木			
群馬			
埼玉		1	1
千葉		1	1
東京		4	4
神奈川	1	1	2
新潟		1	1
富山	1	1	2
石川			
福井			
山梨			
長野	4		4
岐阜			
静岡	1		1
愛知	2		2
三重			
滋賀			
京都			
大阪		1	1
兵庫	2	1	3
奈良			
和歌山			
鳥取	2	1	3
島根			
岡山			
広島			
山口			
徳島			
香川			
愛媛			
高知			
福岡	2	1	3
佐賀			
長崎	1		1
熊本		1	1
大分			
宮崎			
鹿児島			
沖縄			
合計	20	19	39

②採用形態別

	入門	自主事業	合計
地方公共団体職員（財団への派遣・出向を含む）	9	3	12
施設管理団体（財団・NPO法人等）採用職員	9	16	25
施設管理団体（民間事業者）採用職員			
その他	2		2
合計	20	19	39

③性別

	入門	自主事業	合計
男	5	4	9
女	15	15	30
合計	20	19	39

④年代別

	入門	自主事業	合計
20代	11	8	19
30代	7	8	15
40代	2	2	4
50代		1	1
合計	20	19	39

II 令和4年度事業

3 コーディネーター・講師一覧

(1) ステージラボ 大分セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

花田 和加子（ヴァイオリニスト／地域創造おんかつコーディネーター）

○自主事業コース

別府 一樹（日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長）

○公立ホール・劇場マネージャーコース

松浦 茂之（三重県文化会館 副館長兼事業課長）

【サブコーディネーター】

○ホール入門コース

黒田 麻紀子（公益財団法人静岡県文化財団 文化事業課企画制作グループ チーフスタッフ）

【講師】

○ホール入門コース

セレノグラフィカ

隅地 茉歩（振付家／ダンサー）

阿比留 修一（ダンサー）

久保田 力（サザンクス筑後）

金澤 大介（幸田町文化振興協会）

植田 理沙（iichiko 総合文化センター）

○自主事業コース

森下 真樹（振付家／ダンサー）

ムジタンツ

酒井 雅代（ピアニスト）

山崎 朋（ダンサー）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター）

○公立ホール・劇場マネージャーコース

永山 智行（劇団こふく劇場代表）

野村 政之（一般財団法人長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進室 ゼネラルコーディネーター）

○共通プログラム

榎本 寿紀（大分県立美術館）

鈴木 広志（サクソフォン・マルチリード）

小林 武文（ドラム・パーカッション）

中島 さち子（ピアノ）

(2) ステージラボ 川崎セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

岩崎 正裕 (劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

○自主事業コース

田中 玲子 (認定 NPO 法人 トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事)

三浦 美弥子 (認定 NPO 法人 トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター)

【講師】

○ホール入門コース

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家／ダンサー)

阿比留 修一 (ダンサー)

龍 亜希 (北九州芸術劇場)

中川 賢一 (ピアニスト)

○自主事業コース

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家／ダンサー)

阿比留 修一 (ダンサー)

中川 賢一 (ピアニスト)

マルシェ弦楽四重奏団

藤代 優意 (ヴァイオリン)

内藤 歌子 (ヴァイオリン)

野村 英利 (ヴィオラ) ※代演

伊藤 七生 (チェロ)

○共通プログラム

大木 麻理 (ミューザ川崎シンフォニーホール・ホールオルガニスト)

佐藤 友紀 (東京交響楽団・首席トランペット奏者)

II 令和4年度事業

4 スタッフ一覧

ステージラボ 大分セッション

○一般財団法人地域創造

濱田 裕正（芸術環境部 企画課長）

津村 卓（プロデューサー）

児玉 真（プロデューサー）

[ホール入門コース] 森永 南海子

[自主事業コース] 岸 直樹

[公立ホール・劇場マネージャーコース] 矢嶋 駿

[事務局] 栗林 礼也、藤原 加奈、梅村 尚幸、三田 真由美

○iichiko 総合文化センター

工藤 茂

[ホール入門コース] 植田 理沙

[自主事業コース] 八坂 千景

[公立ホール・劇場マネージャーコース] 石松 久典

ステージラボ 川崎セッション

○一般財団法人地域創造

藤田 穰（事務局長 兼 芸術環境部長）

濱田 裕正（芸術環境部 企画課長）

津村 卓（プロデューサー）

児玉 真（プロデューサー）

[ホール入門コース] 藁科 幸絵

[自主事業コース] 前田 明紀

[事務局] 栗林 礼也、仕田 佳経、梅村 尚幸、藤原 加奈、三田 真由美、矢嶋 駿

○ミュージア川崎シンフォニーホール

山田 里子

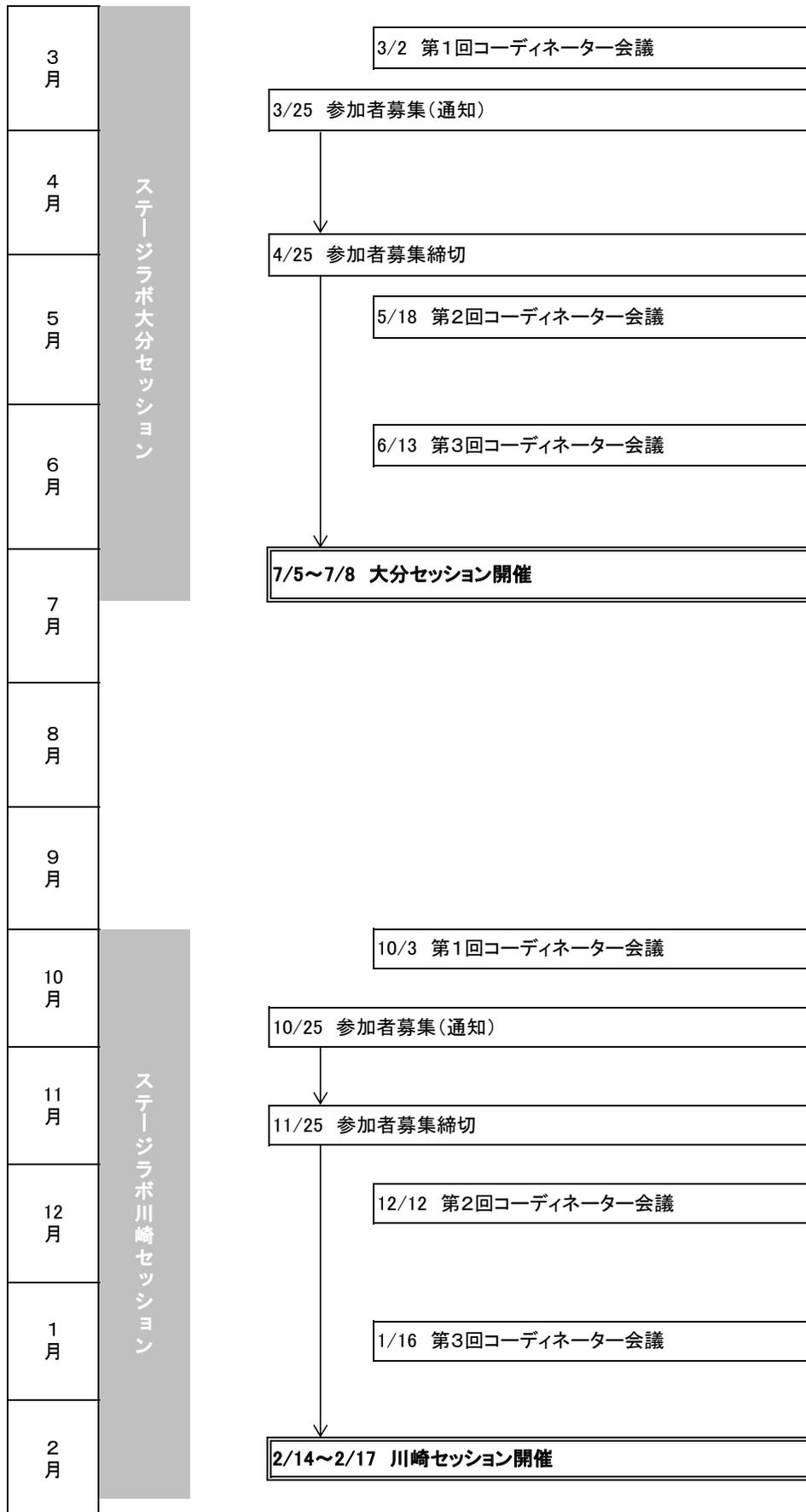
福谷 典子

中村 友美

鷹野 由来

II 令和4年度事業

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



Ⅲ ステージラボ

大分セッション

Ⅲ ステージラボ 大分セッション

1 コーディネーター・講師紹介

(1) ホール入門コース

●コーディネーター

花田 和加子 (ヴァイオリニスト/地域創造おんかつコーディネーター)

[メッセージ]

文化予算の削減、施設の老朽化や統廃合、そして新型コロナと、これまでになく厳しい環境の中でスタートを切ったみなさんに、明るい夢や希望を持ってもらいたい！ 同時に、公共文化施設の職員として、地域に愛される・必要とされる施設にするために担っていただかなければならない使命もあります。その使命を果たすための最強の武器がアートであり、パートナーとなるのがアーティストです。

海外や首都圏から優れたアーティストを招いて公演を開催することも重要ですが、それだけでよいのでしょうか？ コロナ禍を通して今、地元のアーティストによる地元ならではの活動が注目を浴びるようになってきました。ようやく世の中に定着してきたアウトリーチ活動も、近年ではその目的も手法も多様化し、そこから新しい可能性が生まれることによってアーティストと地域をつなぐホール・劇場の役割は益々重要になってきています。

入門コースでは地域のアーティストの登録制度を設けて地域のための様々な企画を展開しているホールの取り組みをご紹介します。アーティストによる実際のアウトリーチ・プログラムを体験していただきます。その上で、私たちがそれぞれの地域のためにどのような活動ができるかを一緒に考えてみましょう。

[プロフィール]

15歳で渡英。オックスフォード大学卒業後、東京藝術大学大学院修士課程を修了。ヴァイオリニスト五嶋みどりのアシスタント・マネージャーを努め、NPO ミュージック・シェアリングのコミュニティー・エンゲージメント・プログラムの開発に関わる。現在、東京藝術大学、及び、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師として後進の指導に当たる傍ら、(一財)地域創造公共ホール音楽活性化事業コーディネーター、静岡県公立ホール連携支援事業・グランシップ登録アーティスト研修事業講師、サントリーホール室内楽アカデミーファシリテーター、兵庫芸術文化センター管弦楽団アウトリーチ研修会講師、(一社)アンサンブル・ノマド理事兼プレイング・マネージャーを務める。

●講師

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家/ダンサー)

阿比留 修一 (ダンサー)

久保田 力 (サザンクス筑後)

金澤 大介 (幸田町文化振興協会)

植田 理沙 (iichiko 総合文化センター)

(2) 事業入門コース

●コーディネーター

別府 一樹（日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長）

[メッセージ]

事業担当者としての基礎を身に着けた皆さんがさらに仕事の幅を広げ、質を高めていくためには、多くのジャンルの専門家と出会い、協働を通じて目的に合ったプログラムを構築することが必要となります。中でも様々なアーティストとの協働は、事業実施の上で最も重要なプロセスといえます。しかしながらそこに苦手意識や距離感を感じている方も少なくないのではないのでしょうか。本コースではアーティストにとって最も重要な「創作」の過程に関わりながら、コーディネーター自身が芸術団体での制作体験から得た協働のための知恵を皆さんに伝えたいと思っています。本コースで様々な角度からアーティストとの協働による創造活動を経験し、その手ごたえや実感を持ち帰り、今後の事業実施におけるチャレンジの原動力としてほしいと考えています。広範な皆様の参加を心より楽しみにしています。

[プロフィール]

東京生まれ。慶應義塾大学美術学専攻で音楽学、音楽史、アートマネジメントを学ぶ傍ら、同大オーケストラに参加し運営責任者を務める。2000年京都市交響楽団音楽スタッフとしてキャリアを開始し、紀尾井ホール（紀尾井シンフォニエッタ東京）、神奈川県民ホールの人材育成プログラム担当、テレビマンユニオンのプロデューサー、神奈川フィルハーモニー交響楽団事務局次長を歴任。2015年より日本フィルハーモニー交響楽団にて地域・教育・被災地活動の責任者。また2011年より東京藝術大学の室内楽科でオーケストラの授業コーディネートを行っており、神奈川大学等数多くの大学でオーケストラのマネジメントに関するゲスト講師を務めている。

●講師

森下 真樹（振付家／ダンサー）

ムジタンツ

酒井 雅代（ピアニスト）

山崎 朋（ダンサー）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター）

(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

●コーディネーター

松浦 茂之 (三重県文化会館 副館長兼事業課長)

[メッセージ]

劇場法施行からはや 10 年が経過しましたが、この法律に沿った運営や事業展開が図られている公立ホールは、いったい全国に何館あるでしょうか？ 硬直化した組織の問題、減額が続く予算の問題などなど、法律の趣旨は理解できても、現場がそれを活かすにはあまりにも劣悪な経営環境が安易に想像できます。そして追い打ちをかけるかのコロナ禍による業界ダメージ…かように劇場を取り巻く環境は決して楽観的なものではありません。

しかし、しかしです。社会全体が疲弊すればするほど、心の拠り所となるアートや劇場の存在価値は一層高まるともいえます。「うちの市役所は頭固いから。」とか、「お金がない。」などの愚痴や嘆きはもうやめにしましょう。アートマネジメントの本質は、アートによって社会や人々の価値観に有効な変化をもたらすことに尽きると思います。目の前のたった一人を説得できない人が社会に変化をもたらせるはずがありません。「地域住民にとって理想の劇場とは？」この至極シンプルで真っ当な命題を、私も含めて参加者全員で楽しく考える研修会にしたいと思っています。

[プロフィール]

1968 年三重県四日市市生まれ。金融機関等の民間勤務を経て、2000 年より三重県文化振興事業団職員として勤務。総務部を経て 2007 年に事業課へ異動し、2019 年より現職。総務部では組織改革、業務改革に携わり、ISO9001 の導入、中期経営計画策定、指定管理者応募作業等を担当。事業課に異動してからは事業統括と演劇事業を中心に担当し、複数のプロ劇団と公共ホールによる演劇制作ネットワーク「トリプル 3 演劇ワリカンネットワーク」、市民参加の疑似劇団活動「ミエ演劇ラボ」、小ホール 24 時間連続使用により注目劇団を紹介するシリーズ「M ゲキセレクション」、まちなかりディングフェス「MPAD」、「‘介護を楽しむ’明るく老いる’アートプロジェクト」等をプロデュースし、現在に至る。

●講師

永山 智行 (劇団こぶく劇場代表)

野村 政之 (一般財団法人長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進室 ゼネラルコーディネーター)

III ステージラボ 大分セッション

2 研修プログラム

■ 7月5日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 花田 和加子 ヴァイオリニスト/地域創造おんかつ コーディネーター	コーディネーター 別府 一樹 日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長	コーディネーター 松浦 茂之 三重県文化会館 副館長兼事業課長
主会場	大練習室	リハーサル室	映像小ホール
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30～ 受付		
	14:00～14:50 開講式・オリエンテーション		
15:00	会場：iichiko音の泉ホール		
15:00～16:00	ゼミ1 「百聞は一見に如かず：まずは体験してみよう！」	15:00～17:30 ゼミ1 「アーティストとの協働から考える事業企画の未来&うずうず発散！ダンスワークショップ」	15:00～16:30 ゼミ1 「まずは自己紹介から始めよう！」 「劇場を取り巻く経営環境について考えよう！」
16:00	講師：セレノグラフィカ 会場：リハーサル室	講師：別府 一樹、森下 真樹ほか 会場：大練習室、リハーサル室	講師：松浦 茂之 会場：映像小ホール
16:15～17:30	ゼミ2 「アーティストの本音を訊いてみよう！」		16:45～17:45 ゼミ2 「グループワーク① 劇場の提供するサービスを考えてみよう！」
17:00	講師：セレノグラフィカ、花田 和加子 会場：大練習室		講師：松浦 茂之 会場：映像小ホール
18:00	休憩・移動	休憩・移動	休憩・移動
18:00～19:30	全体交流会		
19:00	会場：ホテル日航大分 オアシスタワー 紅梅の間 (3F)		
20:00			
21:00			

■ 7月6日（水） 第2日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 花田 和加子 ヴァイオリニスト／地域創造おんかつコーディネーター	コーディネーター 別府 一樹 日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長	コーディネーター 松浦 茂之 三重県文化会館 副館長兼事業課長
主会場	大練習室	リハーサル室	映像小ホール
10:00			
11:00	10:00～12:30 ゼミ3「地域に愛されるホール作り：地域と向き合うとは？」 講師：久保田 力 会場：大練習室	10:00～12:00 ゼミ2「ムジタンの地域活動紹介と体験」 講師：ムジタンツ 会場：リハーサル室、中練習室2、小練習室3	10:00～11:00 ゼミ3「地域に合った文化振興の事例を学ぼう！①」 講師：永山 智行 会場：映像小ホール
12:00	(適宜休憩)		11:00～12:00 ゼミ4「地域に合った文化振興の事例を学ぼう！②」 講師：野村 政之 会場：映像小ホール
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:30～17:15 ゼミ4「アウトリーチの可能性について①」 講師：黒田 麻紀子、金澤 大介、植田 理沙、花田 和加子 会場：大練習室	13:00～15:00 ゼミ3「各地域の課題共有とプログラムづくりのためのディスカッション」 講師：別府 一樹、坂田 雄平 会場：リハーサル室	13:00～14:00 ゼミ5「劇場の自主事業をグランドデザインしてみよう！」 講師：松浦 茂之 会場：映像小ホール
15:00	(適宜休憩)	休憩	休憩
16:00		15:15～17:15 ゼミ4「プログラム作り①」 講師：ムジタンツ、森下 真樹 会場：リハーサル室、中練習室2、小練習室3	14:30～17:00 ゼミ6「グループワーク② 劇場の自主事業をグランドデザインしてみよう！」 会場：映像小ホール 講師：松浦 茂之、永山 智行、野村 政之 会場：映像小ホール
17:00	休憩・移動	休憩・移動	休憩・移動
18:00	17:30～19:30 共通プログラム「音楽と美術の融合ワークショップ『音を描く、絵を奏でる』」 講師：榎本 寿紀、鈴木 広志、小林 武文、中島 さち子 会場：iichikoアトリウムプラザ		
19:00			
20:00			
21:00			

■7月7日（木） 第3日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 花田 和加子 ヴァイオリニスト／地域創造おんかつ コーディネーター	コーディネーター 別府 一樹 日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長	コーディネーター 松浦 茂之 三重県文化会館 副館長兼事業課長
主会場	大練習室	リハーサル室	映像小ホール
10:00			
11:00	10:00～12:30 ゼミ5 「アウトリーチの可能性 について②」 講師：花田 和加子、久保田 力 会場：大練習室	10:00～12:00 ゼミ5 「アーティストと公共ホ ールの共創を考える」 講師：坂田 雄平 会場：リハーサル室	10:00～11:30 ゼミ7 「グループワーク②の発 表と振り返り」 講師：松浦 茂之 会場：映像小ホール
12:00			11:30～12:30 アンケート記入・休憩
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	12:30～13:00 修了式 会場：映像小ホール
14:00	13:30～ ゼミ6 「新しい視点で街を見て みよう」 講師：花田 和加子、黒田 麻紀子 会場：iichiko総合文化センター	13:00～18:00 ゼミ6 「プログラム作り②」 講師：ムジタンツ、森下 真樹 会場：リハーサル室、 中練習室2、小練習室4 (適宜休憩)	
15:00	(適宜休憩)		
16:00	～19:30 ゼミ7 「企画してみよう」 講師：花田 和加子、黒田 麻紀子 会場：大練習室、映像小ホール		
17:00			
18:00		休憩	
19:00		18:30～19:30 ゼミ7 「プログラム発表・体験とディスカッション」 講師：別府 一樹 会場：リハーサル室	
20:00			

■7月8日（金） 第4日

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	コーディネーター 花田 和加子 ヴァイオリニスト／地域創造おんかつ コーディネーター	コーディネーター 別府 一樹 日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長	コーディネーター 松浦 茂之 三重県文化会館 副館長兼事業課長
主会場	大練習室	リハーサル室	
9:00			
10:00	9:00～11:30 ゼミ8「夢を語ろう！」 講師：花田 和加子、黒田 麻紀子 会場：大練習室	9:30～11:30 ゼミ8「振り返りと感想のシェア、自由な議論」 講師：別府 一樹ほか 会場：リハーサル室、中練習室2	
11:00			
12:00	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動	11:30～12:00 アンケート記入・休憩・移動	
13:00	12:00～13:00 修了式 会場：iichiko音の泉ホール		
14:00	※修了式後、各コース毎に解散	※修了式後、各コース毎に解散	
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			

III ステージラボ 大分セッション

3 各コースについて

(1) ホール入門コース

①総評

コーディネーター 花田 和加子

台風接近の悪天候の中、全国各地からお集まり下さった講師の皆さま、並びに20名のコース受講生の皆さんにまず感謝申し上げます。そして、炎天下での街歩き同行など多方面でサポート下さいました iichiko 総合文化センターの皆さま、地域創造の皆さまには心より感謝申し上げます。

コロナ禍になって3年目。受講生の皆さんの大半は在職1年未満ということで、ホールや劇場の在り方が根本から問われているような状況下でこの世界に飛び込まれたこととなります。今回のホール入門コースでは、そのような大変厳しい状況の中に身を投じて下さった皆さんに「夢と希望と使命感」を持っていただき、日々直面する様々な課題難題に誇りを持って取り組んでいただけるようにしたいと考えました。さらに、コロナを経験したからこそ見えてきた、地域のための公立文化施設の在り方の新しい可能性に目を向けていただくことを目標としました。

1日目はまずはセレノグラフィカによるコンテンポラリーダンスのアウトリーチを実際に体験し、その後、普段はチャンスがない「アーティストの本音を聞く」機会を設け、セレノグラフィカのお二人にアーティストは何を考え、どんな思いを抱いているのかを語っていただきました。2日目午前はサザンクス筑後の久保田さんに「ホール職員の基本の基」として、公立文化施設にはどのような役割が求められているのかについて、サザンクス筑後での「アートでつなぐまちづくり」の実践例をご紹介いただきながらお話いただきました。午後は地域のアーティストを活用したアウトリーチ事業を展開している3館（幸田町文化振興協会、iichiko 総合文化センター、静岡グランシップ）にそれぞれの取り組みをご紹介いただき、その後講師を交えて4つのグループに分かれ、アウトリーチの意味や取り組み方についてディスカッションを行いました。

3日目はサザンクス筑後の久保田さんに再登壇いただき、演劇を中心としたアウトリーチ事業についてご紹介いただいた後、私の方から過去のおんかつのアウトリーチの中から「届ける」だけでなく、地域の様々なコミュニティ同士をアートを介して繋ぐことによって新しい可能性が広がった事例をご紹介し、アウトリーチ事業の新しい活用方法についてお話ししました。午後は5つのグループに分かれて iichiko 総合文化センター周辺を散策し、事前にこちらで用意した6つの場所・施設の中から1つを選び、そこでどのような目的でどのような人を対象にアウトリーチを実施したらいいかアウトリーチの企画案を考えていただきました。

最終日は前日に練っていただいたアウトリーチ企画案を発表していただいた後、お一人ずつ自分の街に戻ったらチャレンジしてみたい「夢」を語っていただきました。その「夢」は画用紙に書いて各自持ち帰っていただき、1年後の7月8日に見返してこの4日間の経験や一緒にコースに参加した仲間のことを思い出していただく約束をしました。

社会の変化と共に公立文化施設に求められるものも変化していきます。今この瞬間に自分たちの地域にはどのようなニーズがあり、会館にどのようなことが求められているのかを知るには、日頃から会館の外に目を向けて様々なアンテナを張り巡らしておく必要があります。街歩きとアウトリーチ企画立案はそのための演習として考えたものでしたが、たった半日という限られた時間であったにも拘らず、皆さんからは予想を超えた多くの「気付き」と、それに対する素晴らしい企画案が多数発表されました。また、最終日の「夢」発表では、このコースのテーマであった「夢と希望と使命感」をしっかりと受け止めて下さった受講生の皆さんの熱い思いをたくさん知ることができ、この研修を終えて皆さんが自分たちの市町に戻った時に、それまでとは違った風景を見、感じることができるようになっていくことを確信しました。

今回このコースを担当させていただき、受講生の皆さんの熱意に触れさせていただいたことによって、私自身の次の課題として、この熱い思いを共有して事業のパートナーとなってくれるような、強い意欲と幅広い視野、豊かな想像（創造）力と思考の柔軟性を持ったアーティストの育成も必要であると強く感じさせられました。

②ゼミ記録

第1日 7月5日(火)

ゼミ1「百聞は一見に如かず：まずは体験してみよう！」

講師：セレノグラフィカ

開講式で初めて顔を合わせた受講生20名の皆さん。出会ったばかりの皆さんの心と身体をほぐしながら、実際のアウトリーチを体験する1時間のワークショップからスタートしました。セレノグラフィカのお二人は、公共ホール現代ダンス活性化支援事業の登録アーティストも務めるなど、数多くのアウトリーチを実践し続けています。二人の言葉がけや合図で全ての参加者（コーディネーターも参加！）がいち“ダンサー”になる、セレノマジックをたっぷり味わいました。



ワークショップを通じて自然と受講生、コーディネーターの距離がぐっと縮まっていきました。

ゼミ2「アーティストの本音を訊いてみよう！」

講師：セレノグラフィカ、花田 和加子

ゼミ2では、ゼミ1で体験したことをフィードバックする上で、事前に受講生から集めた質問事項を10個にまとめ、セレノグラフィカのお二人の本音を訊きだしてみました。

「Q：活動する上で大切にしていることは？」「阿比留さん：ダンスを通じて身体への可能性を引き出す上で、身体をいたわることを大事にしている」、「Q：子どもたちから『踊りたくない』と言われたら？」「隅地さん：踊りたくない身体は自然と分かる、待つことが大切。以前は、子どもたちに身体を動かさせることに必死だった」

「Q：舞台公演を行う時に、担当のホール職員に求めるものは？」「まずホールの方の想いを聴きたい。一緒に創り上げることを大事にしたい」など、アーティストとして様々な経験を踏んでいるお二人だからこそその生の声を訊くことが出来ました。受講生は話を聴きながら大きく頷いたり、真剣に耳を傾けメモを取る姿が印象的でした。



第2日 7月6日(水)

ゼミ3「地域に愛されるホール作り：地域と向き合うとは？」

講師：久保田 力

ゼミ3では、入門コースの受講生だからこそ知ってもらいたい、公共ホール担当者の「基本の基」を知ってもらうため、演劇の手法を中心に「アートでつなぐまちづくり」を筑後市で実践し続けている久保田力さんをお呼びしました。「基本の基」は時代と共に変化し続けていくもの、現在の社会、地域の多様な課題に「アート」の力で取り組むために、求められる公共ホール職員の姿について、様々な視点から話をしてくださいました。今ホールに求められているのは、まさに『

変化する地域と越境する文化の役割』（地域創造が4月に発行した調査研究報告書のタイトルでもあります）につなぎ手として入っていける職員。サザンクス筑後で23年間続いている表現教育講座「こどものためのえんげきひろば」は、まさに積み上げてきた実例でした。多くの筑後市の子どもたちが参加し、その一回一回に久保田さんが真摯に取り組んで来た証として、サザンクス筑後という「劇場」が子どもたちにとって「私の居場所」「家族」「実家」と、なくてはならない存在になっている。公共ホールとしての存在意義や価値を示す事例であると感動すら覚えました。久保田さんから受講生に「若い人は、文化施設の中で、文化・芸術の中で、新しい発想で取り組んで欲しい」とメールを送っていただきました。



ゼミ4「アウトリーチの可能性について①」

講師：黒田 麻紀子、金澤 大介、植田 理沙、花田 和加子

ゼミ4では、地域のアーティストを活用してアウトリーチ事業を実践している3館の職員の、それぞれのアウトリーチの取り組みの紹介からスタートしました。幸田町文化振興協会の金澤さんからは、地域創造の公共ホール音楽活性化事業に参加した経験から、未来のお客さんになりえる幸田町の小学生にクラシック音楽のアウトリーチを実践し、そのための地元のアーティストも育成する形へ進んだ話。

iichiko 総合文化センターの植田さんからは、音楽大学で4年間音楽を学んできたきた経験から、より良い形の音楽アウトリーチを作るべく、ゼロから地域の登録アーティスト制度を立ち上げ、担当者の思いが詰まった形となった話。グランシップの黒田さ



んからは、グランシップという文化施設をより多くの人に知ってもらうために事業に連動したアウトリーチを少しずつ増やしていく中で、音楽ジャンルへのニーズの高さや地元のアーティストの活躍の場を提供することも目的で登録アーティスト制度をスタートさせ、昨年度に見直しを図り制度をリニューアルさせた話をしていただきました。きっかけこそ3館3様ながらも、子どもたちや多くの町民県民に音楽や文化事業を届けたいという気持ちは共通であり、その後の座談会でもアーティストとの付き合い方や、事業の継続性について担当者の想いを伝え合いながら、学校でのアウトリーチの実際の苦労話や、忙しい担当の先生へ負担のない電話の掛け方など、より具体的な話に移っていきました。後半は、4つのグループにコーディネーター・各講師が加わり、「アウトリーチについて学校の先生に説明する方法」、「小学校でアウトリーチをするなら何をしたいか」というテーマでグループディスカッション。アウトリーチ実践のあるグループは、日頃の悩みについて講師から直接アドバイスをもらったり、アウトリーチ実践の少ないグループは、これからやってみたいアウトリーチについて語り合うなど短い時間ながら活発に意見交換する時間となりました。

第3日 7月7日(木)

ゼミ5「アウトリーチの可能性について②」

講師：久保田 力、花田 和加子

ゼミ5は、ゼミ3の続編として、サザンクス筑後の久保田さんより、「こどものためのえんげきひろば」をベースにスタートしたアウトリーチ事業について話をさせていただきました。久保田さんから演劇の持つ力や、アウトリーチの効果について実践を続けているからこそ具体的な事例を。そして、子どもたちにとって一期一会の機会となるアウトリーチが、子どもたちのその後の経験を変えることに繋がり、文化芸術活動が、現代社会の課題解決を進行していく人材を生み出す可能性について、更に熱いメッセージを受講生に伝えていただきました。



久保田さんの話を受け、花田より地域創造の公共ホール音楽活性化事業に長年携わった経験から、学校以外の様々な事例について紹介をしました。アウトリーチの目的には様々な要素があり、「①つなぐ・絆を育むためには」「②理解者を増やすためには」「③元気な街づくりを生み出すためには」「④子育て支援の側面からのアウトリーチ」「⑤文化的資本の格差を埋めるためには」と、5つの観点に絡めて失敗談も含めて紹介。ゼミ6からゼミ8に繋がる様々なヒントを与える形になりました。

ゼミ6「新しい視点で街を見てみよう」

講師：花田 和加子、黒田 麻紀子

ゼミ6からは、ゼミ8へ繋がる連続講座でもあります。ゼミ1からゼミ5までの学びを受けて、iichiko 総合文化センターの周辺を散策する街歩きへ。予めコーディネーターが指定したアウトリーチの候補地から、5つのグループで、企画したい場所を選び、実際にその場所に足を運んでみました。大分市街の立派な商店街や、かつて府内城（ふないじょう）があった城址公園、特別に見せていただいた大分県議会の議場、大分市が有効活用の為に整備した「鉄道残存敷」（てつどうざんぞんしき）と呼ばれる高架下、大分県民の知の拠点でもある大分県立図書館など。実際に足を運び、目で確認しながら、企画を膨らませていく受講生。暑さを凌ぐためにたまたま入った喫茶店で思わぬヒントをもらったグループも。街の魅力から新たな企画を引き出していきます。



ゼミ7「企画してみよう」

講師：花田 和加子、黒田 麻紀子

ゼミ6の街歩きを経て、いよいよアウトリーチの企画を考えていきます。入門コースの受講生は、公共ホールの職員として1年未満の方がほとんど。恐らく具体的な企画は初めてということもあり、企画の基本である6つの柱：5W（いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ）+1H（どのように）をベースに組み立ててもらうことに。グループごとのチーム力でアイデアを出し合いながら企画を練り上げていきます。企画を組み立て実践することも重要ですが、その企画が最終的に地域やホールに何をフィードバックし、課題解決に結びつけることが出来るか。ちょっとハードルが高いのですが、説得力のある企画を今後ホールで実践していくためにその部分も考えてもらうようお願いしてみました。時間内に終わらないグループも続出。受講生が真剣に取り組んでいる姿に、最終日の発表が待ち遠しくてたまりません。



第4日 7月8日(金)

ゼミ8「夢を語ろう！」

講師：花田 和加子、黒田 麻紀子

ゼミ8は、グループごとに考えた企画の発表からスタート。県立図書館の特徴的な空間を活かし、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる絵本を使ったコンサート。若い人に街に愛着を持ってもらうべく、新しく整備された「鉄道残存敷」（高架下）を活用した高校生向けの演劇のワークショップと発表。城址公園の特徴的な空間を活かし、大分にゆかりの深いキリシタン大名である大友宗麟と関係を持つ、伊東マンショの一生について小学校6年生に向けた回遊式演劇の企画。選挙権を持つ18歳の子どもたちに選挙への関心を持ってもらうため、演劇を使った表現手法で「政治」をテーマにした鑑賞型アウトリーチと体験型アウトリーチを学校で行い、その成果を大分県議会の議場を活用し、県会議員の皆さんに観てもらおう企画。最後は、「鉄道残存敷」（高架下）の特性を活かし、近隣の盲学校や聾学校の子どもたちや、部活動の参加率も相対的に低いひとり親家庭の子どもたちが、気軽に参加出来る放課後ダンスクルー。どのグループも地域の課題に着目しながら、選んだアウトリーチの場所の特性や魅力も活かし、短時間で練り上げた企画とは思えないほど魅力的な企画が集まりました。各グループのプレゼンテーションの方法も創意工夫に溢れるものばかり。物語形式に発表したり、ミニ会話劇から課題を紹介するやり方、パワーポイントを有効的に使ったり、街の持つ課題を行政資料から裏付けするなど…説得力のある見応えあるものとなりました。そして、最後は各受講生が、自分の街で実現したいこと、そのために何をやってみたいのか、夢プランを語る時間へ。画用紙に言葉をしたため、自分の想いや決意を堂々と発表する姿に胸が熱くなりました。

「1年後の2023年7月8日(土)にこの自分の書いた夢プランを是非見返して欲しい。この4日間で学んだこと、全国の仲間と出会えたこと、そして何よりもこのホール・劇場という仕事を選んだことに誇りを持って、それぞれの場所で夢と希望と使命感+愛を持ちながら頑張っ欲しい」とエールを送り、4日間の入門コースを締めくくりました。



(2) 自主事業コース

①総評

コーディネーター 別府 一樹

私はこれまで主としてオーケストラに所属しながら様々な形で教育・地域・被災地支援などの活動に関わってきましたが、公共ホールでの実務経験はなく、かつ今回のように公共ホールの事業担当者と密接かつ長い時間を過ごすことも過去にはなかったため、大きなプレッシャーと共に大変な期待感を持ってこの任に当たらせていただきましたが、結果として大変刺激的で学び多い時間を得ることができました。私に大役を任せてくださった皆様の期待に少しでも応えたいとの思いから、予定調和でない挑戦的なコース内容と、心から信頼できる講師陣を招聘し、今できるベストと思われる内容でコースを構成しました。講師陣（ムジタンツさん、森下真樹さん、坂田雄平さん）もリアルなプログラム作りのプロセスを受講生に開示することに同意してくれ、事前準備にも多大なるご協力を頂きました。5回の事前ミーティングを通じてプログラム創作の道筋を一度経験することで、現場で参加する受講生に何をもちたらすことができるかを考えることが可能になりました。特にムジタンツさんと森下真樹さんにとっては互いに初めての協働となるプロジェクトが「クラシック音楽とコンテンポラリーダンスのコラボ」かつ「市民参加型のワークショップ要素を含むプログラム」という複雑な内容であったにも関わらず、持ち前の真摯さ、情熱、好奇心で、このプロジェクトを華やかかつ真に命あるものにして下さいました。また坂田雄平さんの豊かな現場経験からくる柔軟な対応力と姿勢は、事業担当者の良き模範となったことと思います。

また、受講生がダンスを含むすべてのコース内容に積極的に、文字通り体当たりで参加してくれたことは誠にうれしいことでした。そのエネルギーと明るさ、人と関わることへの積極性に触れ、日本の公共的文化事業にはまだまだ可能性が開かれていると感じました。いうまでもなく地域創造の皆様、iichiko 総合文化センターの皆様のご柔軟で献身的な姿勢には頭が上がりません。

自主事業コースのテーマは「アーティストとの協働・共創の場づくり」とし、アーティストと制作担当者がプログラムを作る過程を受講生が経験することで、文化事業における事業担当者の現場へのかかわり方や、その意味合い、役割と可能性を肌で感じてほしいと考えました。受講生からは「アーティストとあんなにも率直に意見を交わし、時に対立しながらも一緒にゴールを目指すことができるとは思わなかった」という意見も多く聞かれ、自分たちの仕事への取り組み方に新しい可能性・視点を見出してもらうことができたように思います。ぜひ今後は、様々な専門家の力を借りながらプロジェクトを推進することに挑戦してもらえればと思います。

コース全体は①講師と受講生がお互いを知る（ゼミ1, 2, 3と5）②プログラム作り体験（ゼミ4, 6）③発表と振り返り（ゼミ7, 8）という構成をとり、またそれぞれの内容が有機的につながりながら大きなゴールを目指すという、さながら一つの大きなワークショップとなるように設計し、受講生にとっては個々のプログラムはもとより大きなプロジェクトの構成方法をも肌で感じてもらうことを目指しました。さらには4人の講師とコーディネーターが全日程に帯同することにより、短期間ながら「アーティスト・イン・レジデンス」的な時空間を作ることで、講師・受講生の間の様々な副次的な効果、関係構築にも期待し、この点でも大きな成果を上げることができました。今回誕生したプログラムが、受講生の所属するホールで今後実施されることになれば、「人と人の縁をつなぐ」ことが使命であるコーディネーターとして、これほどうれしいことはありません。限られた時間、コロナの制約の中ではありましたが、受講生はワークショップ、座学、ディスカッション、そして自らが市民参加者の役割を演じながらプログラムづくりの真ただ中に入ること、多くの学びを得ることができたと感じたようです。また、関係者のご配慮により、修了式のステージ上で出来上がったプログラムを演じることで、「演者の気持ち、市民参加者の気持ち」を経験することができたことに、改めて感謝いたします。そして、末筆ながら、公共ホールでの実務経験のない私にコーディネーターをご依頼頂いたことに心より感謝いたします。

②ゼミ記録

第1日 7月5日 (火)

ゼミ1「アーティストとの協働から考える事業企画の未来&うずうず発散！ダンスワークショップ」

講師：別府 一樹、森下 真樹ほか

ステージラボ全体の冒頭に置かれたこのゼミでは、コーディネーター（別府）自身がこれまでのプロフィールを簡単に紹介し、「アーティストとの協働とは何か」について考える座標を与え、実際にステージラボの事前ミーティングでアーティストと歩んできたプロセスについて説明しました。また後半では森下真樹さんが名刺代わりにベートーヴェン「運命」のダンスを披露し、その後参加者を巻き込む様々なダンスワークショップを行いました。これにより参加型事業の楽しさや、一体感を感じるとともに、ラボ後半につながるベートーヴェン「悲愴」のワークも自然な形で行いました。参加者のうち何人かはダンスに苦手意識があったようですが、一流のダンサーが全霊で踊る姿に感化され、あっという間にアーティストの世界に連れていかれたようでした。



第2日 7月6日 (水)

ゼミ2「ムジタンツの地域活動紹介と体験」

講師：ムジタンツ

ムジタンツは、生演奏（ピアノ）と身体表現、ダンスの要素を融合させたアクティビティで音楽作品にアプローチするスタイルを得意としており、このゼミではムジタンツの代表的なプログラムであるバッハ「インベンション」の楽曲構造（3つのモチーフ、フーガ構造）を体感でつかむためのワークショップを実施。イントロダクションでは音にどのように動きで反応するかという「聴覚」と「身体（運動）」



を接続する丁寧なはしごかけが行われ、その後、それぞれのフレーズに合う動きを作るというグループ創作が行われました。このアクティビティ自体が、ステージラボのメインピックであるプログラム作りにおけるグループワークにもつながっています。また後半はムジタンツが行ってきたさまざまな音楽プログラムと、地域課題に取り組んできた実績について説明しました。参加者は個別の課題にアーティスト自身が直接取り組んでいる稀有な事例を知ることができたと思います。

ゼミ3「各地域の課題共有とプログラムづくりのためのディスカッション」

講師：別府 一樹、坂田 雄平

講師2組を知った後は、真の主演といえる受講生たちに、自分のホールの置かれた状況や課題、今後行いたいと考えていることについて全員から発表してもらいました。特に課題については地域特性によって大きく異なり、時に正反対であることもありました。大きく分けて「ホール利用者の偏り、新しい客層（若い世代）を取り込みたい」「ホールの活動を知らせる方法」「プログラムの固定化や組織内の課題」に集約されました。それに対し、講師からは既存の事業を今一度見直し、同じアーティストでも違う客層を意識して取り組むなど、事業担当者の立つべき視座についての指摘が行われました。またすべての世代を対象にする事業は存在しない、具体的に取込む客層を意識してプログラム作りを行う重要性、常に伝えることを意識することなどが指摘されました。また地域の状況をアーティストに知らせるのは事業担当者の役割であることも強調しました。



ゼミ4「プログラム作り①」

講師：ムジタンツ、森下 真樹

受講生の事前アンケートで見られた「コラボレーション」「市民参加」「ジャンル横断企画」などの要望を踏まえ、今回のプログラム作りは①ダンスと音楽のコラボレーション②ベートーヴェンのピアノソナタ「悲愴」を使う③市民参加型のダンスプログラムを開発する、ということを事前ミーティングで決めました。ここでは森下さんが「悲愴」に当てた振付が予告なく披露され、その後、講師陣の事前ミーティングのプロセスを踏まえて「ベートーヴェンについて考える」ワークを参加者とともに実施。またムジタンツが事前にヒアリングを行ったドラマトゥルクの長島確氏からの指

摘を受け、事前に行った講師陣のディスカッションを踏まえて、一般参加者の役割を「ベートーヴェンが意識した音響効果を群舞による視覚効果で表す（通称エフェク隊）」とすること、それらが楽譜を参照しながら説明され、翌日のプログラム作りの道筋が示されました。



第3日 7月7日（木）

ゼミ5「アーティストと公共ホールの共創を考える」

講師：坂田 雄平

震災後、岩手県の宮古市民文化会館のプロデューサーとして、地域課題に取り組むため「市民劇」をはじめとした数多くの市民参加型プロジェクトを手掛け、同時に地域の魅力や新たなアートを発信するためのアーティスト・イン・レジデンス事業を通じてアーティストとの共創を行っている坂田さんが、宮古市民文化会館の事業について様々な角度から解説。ホールの役割、事業の意味付けや様々な要因について説明しました。受講生は、今まさに取り組んでいる市民参加型のプログラム作りについて、自らの地域と会館でどのように意味づけるかを、深く自らに問いかける機会となりました。



ゼミ6「プログラム作り②」

講師：ムジタンツ、森下 真樹

「クラシック音楽とダンスのコラボレーション」であり「ワークショップを内包する市民参加型のプログラム」という前代未聞のプログラムづくりが始まりました。ベートーヴェンの「悲愴」の音響効果的要素を抽出して振り付け、それらを森下さんの振り付けに組み合わせて作品として編纂していきます。受講生は一般参加者の役割で、グループワークで楽曲の振り付けに取り組み、それらを全体で発表しました。ここから全講師が参加してのパフォーマンス



作りが始まります。直観と理論が交錯する正解のないディスカッションは時に交錯し、迷走し、停止しますが、講師同士が役割を交互に交代しながら動き続けることで、5時間30分で「悲愴」のダンス作品が完成。森下さんの振り付けは「エフェク隊」の存在によって有機的に変化し、楽曲の中身を立体的に表すようなダンスコラボレーションが立ち上がりました。

ゼミ7「プログラム発表・体験とディスカッション」

講師：別府 一樹

関係者やホール入門コースの受講生を聴衆に招き、いよいよ即席のパフォーマンス集団による「悲愴」ダンスが発表されました。坂田さんは照明を担当。山崎さんは最後まで参加者を励まします。プログラム作りの現場の熱気、アーティストたちと制作者たちの熱意に乗せられ、発表直前の僅かな時間までも、受講生は発表内容に磨きをかけるために最終チェックと意見交換に余念がありませんでした。こうしてプログラムが生まれる瞬間に、まさにプログラムの一部として体験する経験をもたらすことができました。終演後、講師陣からの振り返りがありました。



第4日 7月8日(金)

ゼミ8「振り返りと感想のシェア、自由な議論」

講師：別府 一樹ほか

21名の受講生全員の振り返りにコーディネーターがコメントしました。強調したのはチームによるプログラム作りにおいては信頼関係が最重要であり、どんなチームを作るか、どんな準備を行うかが最も重要であるということでした。4日間のプログラムは「アーティストとの共創」というテーマに沿って構築されているものの、各講座の内容は濃密で、身体性・感覚的知見から知識・情報までに及んでおり、受講生のほとんど、そして講師すらもこの経験全体



を客観的に記述することができないという感想を抱いていました。コーディネーター目線では、参加者の5年後、10年後に役立てば、現時点では受講生の常識や思い込みを揺さぶることができればと考えて構成した内容であり、受講生の反応はまさに意図した通りと言えました。今回「わからなかった」ことに、引き続き、受講生たちがそれぞれの現場で取り組んでいってもらえたらと思います。

(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

①総評

コーディネーター 松浦 茂之

公立ホール・劇場のマネージャーが研修で学ぶべきこと、私が経験と知見で教えられる内容は何かを考えたとき、第一に思いついたのは劇場を取り巻く経営環境について見つめ直すことでした。「新しくこんな事業をやってみよう」とか、「利用者向けにこんなサービスを始めたらどうか」など、意欲に燃えたマネージャーほどいろんな視点で改善策を考えるものです。しかし現実にはこうした改善策を前に進めようとする、たちまち組織の問題、自治体との関係性の問題、お金の問題など、劇場を取り巻く経営環境の障害にぶつかります。そして私の知る劇場業界の経営環境は決して良好なものではなく、むしろ劣悪な労働環境に置かれていたり、硬直化したルールで予算が組まれたり、施設運営を行っているケースをしばしば目にします。本来劇場はクリエイティブで自由な場であり、感動や笑いを生み出す楽しい場であるはずで、劇場で働く私たちは「毎日が文化祭の準備」のような仕事のはずです。それがもし楽しくない、辛い状況で働いているとすれば、やはりそれは何か経営環境に問題があると考えべきです。研修では三重県文化会館が取り組んできた組織活性化、県庁との指定管理者制度における条例や会計ルールの改革、貸館を含む来館者サービスの取り組み、コストダウンと収益向上策、業務環境向上への取り組みを紹介し、参加者の組織・施設と比較検証してもらいました。これは決して三重県文化会館が参加者の劇場より優れた経営環境にあるという前提ではなく、あらゆる項目を他の劇場と比較することで、改めて自身の組織・施設の良い点と改善点に気付いてもらうことが狙いでした。

ゼミ2では実際に研修会場である iichiko 総合文化センターを見て回り、マネージャーの視点で何に気付くかをワークしてもらいました。日本の公立ホール・劇場の建築設計は、ある時代まで海外の有名劇場、それは格式高い文化の殿堂とも称されるような西洋建築に模倣した時代があり、劇場法に代表される現代の「新しい広場」的な視点が欠落している設計が多いのが実情です。「もっと利用者が便利で快適と思ってもらえる施設の在り方やサービスはないのか?」「居心地がよく何時間でもいたくなるような場にならないか?」……。マネージャーには常に今の劇場の「場」の在り方・使い方を自問自答してもらいたいと考えました。劇場業界の研修でレストランや売店、グッズショップやトイレなど、大型集客施設としてのサービスを考える研修はあまり多くありません。しかしながらそこに訪れる市民にとっては、トイレもレストランも非常に重要なサービスです。参加者がそのことに新たな気付きを得ていただけたら幸いです。

研修2日目からのプログラムは、私がマネージャーコースで参加者に伝えたかった第二のこと、劇場を拠点にその地域にあった文化振興をグランドデザインすることでした。自主事業の研修ではいわゆる先進事例を学ぶことが多いのですが、劇場の規模や予算が違っていると「すごくいい事業だけど自分の劇場とは縁がないなあ」と感じることもあったりします。私は研修でしばしば「全国どこでも必ず成功する自主事業のビジネスモデルはまだない」という趣旨の発言をしますが、このことは自分の三重県文化会館でもいつも頭の中を占めている課題でもあります。自治体や劇場の規模から算出されるべき最適な事業予算規模も全国バラバラですし、事業種別のバランス、すなわち鑑賞・人材養成・普及啓発・創造・市民参加・社会課題への取り組み等のバランスも、何かはっきりとし

た正解があるわけでもありません。それ故に講義では「トライ&エラー」や「スクラップ&ビルド」の重要性、ある画期的な1事業プログラムよりも、社会的成果に向けた全事業のグランドデザインの重要性を説明しました。そして招へい講師には地域に合った文化振興をデザインしてきた実践者であるお二人、劇団こふく劇場代表の永山さんと、信州アーツカウンシル・ゼネラルコーディネーターの野村さんを招き、宮崎や沖縄、長野という異なる地域でどのように事業を展開してきたかを参加者に伝えてもらいました。

2つ目のグループワークでは、三重県文化会館の事業バランスを、コロナ禍による時代の要請の変化もふまえて大胆にスクラップ&ビルドするワークを実施しました。必要情報が不十分な中でのワークでしたが、参加者一同がネット検索で三重の地域特性を調べ、新事業を企画したり、今ある事業をアレンジしたりと、創意工夫に満ち溢れたワークでした。最終日のプレゼンでは私自身が新たな気付きを得るといふ逆転現象が起こるほどハイレベルなプレゼンが続きました。

②ゼミ記録

第1日 7月5日(火)

ゼミ1「まずは自己紹介から始めよう！」「劇場を取り巻く経営環境について考えよう！」

講師：松浦 茂之

まずは参加者11名全員が、‘施設’‘組織’‘パーソナリティ’の3つについて、それぞれ「ワンセンテンス縛り」で自己紹介を行った。端的かつ的確に物事を表現する訓練を兼ねて。その後の講義では劇場を取り巻く経営環境について、三重県文化会館との比較で参加者の劇場のおかれている経営環境を見つめ直してもらった。組織・お金・施設運営等のルールや、貸し館を含む劇場サービス全般において、自由な経営環境がクリエイティブで楽しい場であるはずの劇場にとっていかに重要かを参加者全員で共有した。



ゼミ2「グループワーク① 劇場の提供するサービスを考えてみよう！」

講師：松浦 茂之

体を動かす目的も兼ねて、参加者が3～4名のグループに分かれて iichiko 総合文化センターを見学し、‘good point’と‘opportunity for improvement’を探すワーキングを行った。参加者が iichiko 総合文化センターに配属された新マネージャーであるという架空の設定で、3つの視点、①公演を観に来たお客様の視点、②チケットを買いに来たお客様の視点、③施設を利用しに来たお客様の視点、で劇場の隅々まで探索した。最終のグループ発表では、駅から劇場へのアクセス、貸館受付、プレイガイド、ホールへの入場導線、駐車場など、劇場のいろいろな場所、シチュエーションにおける気付いた良い点と改善の機会が発表された。



第2日 7月6日(水)

ゼミ3「地域に合った文化振興の事例を学ぼう!①」

講師：永山 智行

2日目以降は地域に合った文化振興を考えるターンへ。講師に劇団こぶく劇場代表・永山智行氏を招き、宮崎県立芸術劇場・演劇ディレクター、三股町立文化会館・フランチャイズカンパニーという、規模の異なる2つの文化振興事例をお話しいただいた。県立劇場では決められた予算の中で、鑑賞・人材養成・普及啓発・市民参加・創造と多彩なプログラムを構築したグランドデザインを、三股町では最初に「みまた座」という子ども劇団の活動を始め、そこから同心円の広がりのごとく戯曲講座や市民参加劇に活動の幅を広げ、最終的には町長までもが「演劇のまち三股町」と公言されるに至った、ゆるやかなグランドデザインをご紹介いただいた。県立劇場での「時空の旅シリーズ」、三股町での「まちドラ」など、創意工夫に飛んだ事業事例も大変参考になった。



ゼミ4「地域に合った文化振興の事例を学ぼう!②」

講師：野村 政之

講師に信州アーツカウンシル・ゼネラルコーディネーターの野村政之氏を招き、沖縄アーツカウンシル、信州アーツカウンシルという、地域性の異なる2つの文化振興事例をお話しいただいた。沖縄では観光との連携で「文化の産業化」を図るビジョン、信州では「学びと自治」の実現を図るビジョンをご説明いただき、一口に文化振興といっても地域によってその目指すべき社会的成果

(アウトカム)は差異があることを学んだ。氏の沖縄での民間小劇場設立までの伴走支援、信州で現在進行形で取り組んでいる「NAGANO ORGANIC AIR」など、示唆に富んだプロジェクトをご紹介いただき、参加者にも大いに刺激となった。



ゼミ5「劇場の自主事業をグランドデザインしてみよう！」

講師：松浦 茂之

講義では地域によって異なる商圈、文化資産、地域性から、「必ず成功する自主事業の法則はない」ことを説明し、トライ&エラーやスクラップ&ビルドの重要性を説明した。また、「1事業プログラムは1商品」という例えから、社会的成果(アウトカム)に向けた全事業プログラムの構築、グランドデザインの重要性を説明した。その他にも三重県文化会館の立ち上げた事業を解説しながら、「事業のブランド化」や「先進事例の独自アレンジ」の事業事例を紹介した。



ゼミ6「グループワーク② 劇場の自主事業をグランドデザインしてみよう！」

講師：松浦 茂之、永山 智行、野村 政之

グループワーク第2弾では、三重県文化会館の令和4年度事業計画と予算書を配布し、コロナ禍をふまえて時代の要請が弱くなったと思われる事業をスクラップし、今足りていないと思われる新規事業をビルドするワーキングを行った。三重県の地域性や劇場の歴史、特性を参加者が十分に把握できていない前提でのワーキングであったため、多少乱暴なプログラムであった感は否めないが、鑑賞・人材養成・普及啓発・創造・市民参加・社会課題への取り組みなど、事業種別のバランスを大胆に見直すことを参加者に促した。各グループのワークには永山氏、野村氏も加わっていただき、経験や知見に基づくアドバイスを適宜いただいた。



第3日 7月7日(木)

ゼミ7「グループワーク②の発表と振り返り」

講師：松浦 茂之

最終日は前日のグループワークの大発表会。参加者の各チームが副館長に事業見直しをプレゼンするという設定。各チームとも最終日は朝早くからプレゼン準備を進め、準備の様子をうかがうとそれぞれが根拠のない自信に満ち溢れていて頼もしい雰囲気。「副館長、ちょっとお時間よろしいでしょうか？」の掛け声からプレゼンが始まるルールとし、演劇的要素も加味してのプレゼン開始。どのチームも講師の予想をはるかに上回るプレゼン内容で、プレゼンする迫力(目力)・説得力も秀逸であった。とりわけ新規事業アイデアでは、若年層を劇場に呼び込む人材養成と人材活用を兼ねた事業や、飲食店とコラボレーションした朗読イベント「MPAD」を子ども食堂向けに展開する社会包摂事業、地域格差に着目したワンコインコンサートの県南部展開など、夢物語に終わらない現実的な提案がいくつもあった。研修会全般を通じて明るく楽しく学ぶ参加者の姿勢に随分助けられ、講師自身が新たな気付きを得る貴重な機会となった。



III ステージラボ 大分セッション

4 共通プログラム

音楽と美術の融合ワークショップ「音を描く、絵を奏でる」

(1) 日時・会場

令和4年7月6日(水) 17:30 ~ 19:30 iichiko 総合文化センター iichiko アトリウムプラザ

(2) 講師・出演

榎本 寿紀 (大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長)

鈴木 広志 (サクソフォン・マルチリード)

小林 武文 (ドラム・パーカッション)

中島 さち子 (ピアノ)

(3) 概要及び目的

iichiko(大分県立)総合文化センターと大分県立美術館とは隣接し、両館を公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が管理している。両館それぞれ自主公演・企画展を実施しているが、令和元年度より、両館が連携して音楽と美術を融合させる教育普及事業を実施している。共通プログラムでは、参加者の皆様にこのワークショップを体験していただき、その取り組みを紹介する。

(4) 内容

このプログラムは、榎本氏と鈴木氏がめぐろパーシモンホールにて行った音楽と美術のワークショップがはじまり。鈴木氏が狩野永徳《洛中洛外図屏風》をもとに音楽を作曲し、その演奏する音楽を参加者が絵に描き、さらにその描かれた絵から今度は鈴木氏が即興で新曲を奏で、このセッションを繰り返す、音と絵の伝言ゲームのようなワークショップである。今回の会場はセンターのメインエントランスで4階まで吹き抜けになっている iichiko アトリウムプラザ。この空間に10×8.8メートルの巨大な紙を敷き、ドローイングを行った。

まず榎本氏が各アーティストを紹介。次にサウンドスカルプチャーやサウンドスケープなど、音に関連する美術作品について、アトリウムプラザのビジョンに画像を表示させながら説明。そして音楽を聴きながら音を描くということについて、「できるだけ、音の直接的なイメージだけで描かないように」とのアドバイスをもとに、いよいよ実際に描いてみることに。今回、参加人数が多かったため、東日本と西日本の2チームに分けて、交互に行った。画材と筆の説明を受け、単音→和音→リズム→メロディなど、音楽の要素ごとに発展させて描いていった。はじめは描く動きが控えめだった参加者も次第に大胆になり、筆を使わずハンド(手)ドローイングを試みたり、バケツの絵の具をキャンバスに直接飛び散らせ、ドロッピングの手法を試みるなど、音をそれぞれに感じ取り、自由におおらかに表現した。

その後、完成した作品を吊るして、この絵からどんな音がイメージされるか参加者に想像してもらい、アーティストによる即興演奏へ。全員で音楽と美術を鑑賞した。

最後に榎本氏からまとめとして、このプログラムの今後の展開と可能性、具体的な予算や実施方法の注意点などを説明するとともに、大分県立美術館の教育普及事業を紹介し、全員で作品の前で記念撮影をして終了した。

公共ホールのスタッフにとって、絵の具や墨汁を使って、このように絵を描くという体験は、滅多にあることではない。今回体験していただいた音楽と美術の融合ワークショップによって、今後の活動に新たな視点を加えていただければ幸いである。



IV ステージラボ

川崎セッション

IV ステージラボ 川崎セッション

1 コーディネーター・講師紹介

(1) ホール入門コース

●コーディネーター

岩崎 正裕 (劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

[メッセージ]

私は演劇人ですが、様々な地域に出向いて作品創作やアウトリーチに取り組む時、本気の制作者と出会うと喜びを感じます。その逆の時もあり、あまり顔には出ませんが正直がっかりします。では「本気」とは何なのか。アートの力を信じてそれぞれの地域課題に向き合う勇気です。予算規模が小さいから、職員の人数が足りないから等、事情は様々あるでしょう。ないならないなりに知恵を絞れば必ず道は出来るはずです。制作者は地域住民の笑顔に支えられてモチベーションを高めていくのでしょうか。これはアーティストも同じです。制作者とアーティストの目的が一致した時、地域に開かれた「広場」が現れます。「音楽」「ダンス」「演劇」にはどんな可能性があるのか。体験し、考え、語り合う4日間です。制作者の、ブレない軸のようなものが見つかれば素敵ですね。

[プロフィール]

1963年三重県鈴鹿市生まれ。1982年大阪芸術大学舞台芸術学科在学中に「大阪太陽族」を旗揚げ。現在の「劇団太陽族」に至り、創造活動を40年間継続する。1997年『ここからは遠い国』(作・演出)で第4回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。他に大阪市咲くやこの花賞、兵庫県芸術奨励賞等を受賞。近年では北九州芸術劇場とタッグを組んで、北九州市を2年かけて取材し『まつわる紐、ほどけば風』(作・演出)を発表した。2008年～2022年3月まで伊丹市立演劇ホール・アイホールディレクター。様々な地域と共同して市民参加演劇やワークショップに尽力。現在、地域創造リージョナルシアター事業アドバイザー。大阪現代舞台芸術協会理事長。大阪芸術大学短期大学部特任教授。

●講師

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家/ダンサー)

阿比留 修一 (ダンサー)

龍 亜希 (北九州芸術劇場)

中川 賢一 (ピアニスト)

(2) 事業入門コース

●コーディネーター

田中 玲子 (認定 NPO 法人 トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー/理事)

三浦 美弥子 (認定 NPO 法人 トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター)

[メッセージ]

地域で普及啓発事業を求められているけれど、どこから始めたらよいか分からない……というお悩みありませんか？ 介護施設、病院、小学校、幼稚園など、ホールに来られない方へ音楽をお届けする「アウトリーチ」では、対象者は聴きたくて集まってくる方ばかりではありません。様々な聴き手にとって心に残るアウトリーチとはどんなものなのか真剣に考え、解決したい課題をふまえて演奏家と共にプログラムをつくることで、聴き手とアーティストの良きつなぎ手になりましょう。本コースでは少人数のグループに分かれ、アウトリーチの経験豊富なマルシェ弦楽四重奏団とともに、それぞれのホールに必要なアウトリーチを考え、つくり、発表します。その過程で、「なぜ自主事業としてこのアウトリーチが必要なのか」も言葉にして様々な関係者に説明できるようにしていければと思います。地域に必要とされる自主事業を、愛情こめて企画制作できるようになりたい方をお待ちしています！

[田中玲子 プロフィール]

東慶應義塾大学美学美術史学専攻卒業。フィリアホール企画制作担当、教育プログラムについて英国ノッティンガムとアイルランド・ダブリンでの劇場研修（文化庁新進芸術家海外研修制度）を経て、現在認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワークのエグゼクティブ・プロデューサー/理事。第一生命ホールを拠点にして、ホール主催公演と、ホール周辺地域でのコミュニティ事業を企画制作。

[三浦美弥子 プロフィール]

京都教育大学音楽科卒業後、(株)ベネッセコーポレーションで学校向け教育事業に携わる。(株)二期会 21 でのマネジメント業務を経て、現在認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワークのディレクターとして、第一生命ホール主催公演の企画制作と、小学校でのアウトリーチなどのコミュニティ活動を担当。

●講師

セレノグラフィカ

隅地 茉歩 (振付家/ダンサー)、阿比留 修一 (ダンサー)

中川 賢一 (ピアニスト)

マルシェ弦楽四重奏団

藤代 優意 (ヴァイオリン)、内藤 歌子 (ヴァイオリン)

野村 英利 (ヴィオラ) ※代演、伊藤 七生 (チェロ)

IV ステージラボ 川崎セッション

2 研修プログラム

■ 2月14日（火） 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 岩崎 正裕 劇作家・演出家、劇団太陽族代表	コーディネーター 田中 玲子 認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事 三浦 美弥子 認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター
主会場	市民交流室	企画展示室
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		
	13:30～ 受付	
	14:00～14:50 開講式・オリエンテーション	
15:00	会場：市民交流室	
	15:00～17:30 ゼミ1 「演劇ワークショップ体験 ～グループディスカッション」 講師：岩崎 正裕 会場：市民交流室	15:00～16:20 ゼミ1 ①「参加者同士打ち解ける」 講師：セレノグラフィカ 16:30～17:30 ②「自主事業としてのアウトリーチ事例 を知る」 講師：田中 玲子、三浦 美弥子 会場：企画展示室
16:00		
17:00		
18:00	休憩・移動	休憩・移動
	18:00～19:30 全体交流会	
19:00	会場：ステーションコンファレンス川崎 Room A+B (3F)	
20:00		
21:00		

■ 2月15日(水) 第2日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 岩崎 正裕 劇作家・演出家、劇団太陽族代表	コーディネーター 田中 玲子 認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事 三浦 美弥子 認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター
主会場	市民交流室	企画展示室
10:00		
11:00	10:00～12:30 ゼミ2 「ダンスワークショップ体験」 講師：セレノグラフィカ 会場：企画展示室	10:00～12:30 ゼミ2 「アウトリーチをつくるにあたっての 基礎知識を得る」 講師：中川 賢一 会場：市民交流室
12:00		
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:30～17:15 ゼミ3 「ダンス＋演劇～地域へのアプローチ」 講師：セレノグラフィカ、龍 亜希、 岩崎 正裕 会場：市民交流室	13:30～17:15 ゼミ3 「グループワーク（4グループ）： アウトリーチを考える」 講師：田中 玲子、三浦 美弥子 会場：企画展示室
15:00		
16:00	(適宜休憩)	(適宜休憩)
17:00		
	休憩・移動	休憩・移動
18:00	17:30～19:30 共通プログラム： みんなのオルガン「ミューザ川崎シンフォニーホールのパイプオルガン事業見本市」 講師：大木麻理、佐藤友紀 会場：音楽ホール	
19:00		
20:00		
21:00		

■ 2月16日(木) 第3日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 岩崎 正裕 劇作家・演出家、劇団太陽族代表	コーディネーター 田中 玲子 認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事 三浦 美弥子 認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター
主会場	市民交流室	企画展示室
10:00		
11:00	10:00～11:45 ゼミ4 「音楽ワークショップ体験」 講師：中川 賢一 会場：市民交流室	10:00～12:20 ゼミ4 ① 「グループワーク：マルシェ弦楽 四重奏団とアウトリーチを作る」 講師：マルシェ弦楽四重奏団 会場：企画展示室
12:00	昼食・休憩	
13:00	12:30～14:45 ゼミ5 「音楽＋ダンス＋演劇～コラボの可能性」 講師：中川 賢一、セレノグラフィカ、岩崎 正裕 会場：市民交流室	昼食・休憩
14:00		13:20～14:55 (続き) ② 「グループワーク：マルシェ弦楽 四重奏団とアウトリーチを作る」 講師：マルシェ弦楽四重奏団 会場：企画展示室
15:00	15:00～19:30 ゼミ6 「地域と共にある劇場とは～ レクチャー&ディスカッション」 講師：龍 亜希、岩崎 正裕 会場：研修室1	15:00～19:00 (続き) ③ 「グループワーク：マルシェ弦楽 四重奏団とアウトリーチを作る」 講師：マルシェ弦楽四重奏団 会場：市民交流室
16:00		
17:00	(適宜休憩)	(適宜休憩)
18:00		
19:00		
20:00		

■ 2月17日(金) 第4日

	ホール入門コース	自主事業コース
	コーディネーター 岩崎 正裕 劇作家・演出家、劇団太陽族代表	コーディネーター 田中 玲子 認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事 三浦 美弥子 認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター
主会場	研修室1	企画展示室
9:00		
10:00	9:30~11:30 ゼミ7「発表&振り返り」 講師：龍 亜希、岩崎 正裕 会場：研修室1	9:30~11:30 ゼミ5「リフレクション」 講師：田中 玲子、三浦 美弥子 会場：企画展示室
11:00		
12:00	11:30~12:00 アンケート記入・休憩・移動	11:30~12:00 アンケート記入・休憩・移動
13:00	12:00~13:00 修了式 会場：市民交流室	
14:00	※修了式後、各コース毎に解散	※修了式後、各コース毎に解散
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		

IV ステージラボ 川崎セッション

3 各コースについて

(1) ホール入門コース

①総評

コーディネーター 岩崎 正裕

私は劇作家で演出家だと思っているので、劇場運営の全般について熟知している訳ではありません。そのような意味で「ホール入門コース」のコーディネーターをお引き受けする際に、少しの躊躇いがあったというのが本音です。けれども長い年数に渡り、様々な地域の劇場と連携して作品づくりやアウトリーチに取り組んできた経験から、逆説的に制作者の仕事に必要な条件のようなものを見出させるのではないかと感じていました。

コロナ禍以前のステージラボでは、全国から集まった公共ホール職員が、深夜まで語り合うことが通例となっていました。部分的なゼミでワークショップを担当した私もこの語らいに参加し、痛飲することが常でした。けれども現在では、そんな出来事は夢のような昔話となってしまいました。私たちの生活形態そのものが変容してしまったようです。コロナ禍が落ち着いたとしても、以前のような人と人との関わりが戻ってくるとは到底信じられないのです。

人びとの語らう場や時間が限定的になってしまった今、公共劇場の地域社会に対する役割は、以前にも増しているように思われるのです。「家」と「仕事」の往復に明け暮れる人びとに「第三の場所」を提供すること。それが劇場の役割と言って差し支えないのではないのでしょうか。ましてやリモートワークへの切り替え等で、対面によるコミュニケーションの機会は著しく失われてしまいました。

制作者が仕事をする上で必要な能力に、よくコミュニケーション能力があげられます。このコミュニケーション能力という言葉、内田樹さん(フランス現代思想)が興味深いことを言っています。「コミュニケーション能力とは、コミュニケーションを円滑に進める力ではなく、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出す力である」と。大変示唆に富んでいると感じます。コミュニケーションの不調が連続して現れる昨今、アートにはそれを打開する能力が元もと備わっているのだと信じます。セレノグラフィカさんはダンスの力で、中川賢一さんは音楽の力で、今回それを証明してくれました。また、北九州芸術劇場プロデューサーの龍亜希さんには、それらをどのように地域に浸透させるか、貴重なアドバイスをいただきました。会場となったミューザ川崎シンフォニーホールの皆様には、共通プログラムに於いて、参加者全員がパイプオルガンに触れる機会を与えていただき感謝いたします。大胆で贅沢な時間でした。

四日間を終えて、帰路につく参加者のみなさんの目には、何らかを確信した光が浮かんでいました。顔半分はマスクに覆われていたとはいえ、少なくとも私にはそう感じられたのです。その光とは、様々な地域に同じような課題を抱える公共ホールがあるというイメージを持てたこと、地域課題に向き合うそれぞれの職員に共感できたこと、等々だったのではないのでしょうか。宮沢賢治『銀河鉄道の夜』にこんな一節があります。「その氷山の流れる北のはての海で、小さな船に乗って、風や凍りつく潮水や烈しい寒さとたたかって、たれかが一生けんめいはたらいしている」という下りです。主人公ジョバンニは、ふとした瞬間に遠くの誰かを思いやったのです。この感覚は日々の仕事にも活かされるのではないのでしょうか。今回の研修で、参加者のみなさんは幅広いネットワークを構築しました。ステージラボの四日間を一過性のものとせず、一人ひとりの仕事がこの国の未来を創造しているのだとの気概を持って、進んで欲しいと願います。

②ゼミ記録

第1日 2月14日(火)

ゼミ1「演劇ワークショップ体験～グループディスカッション」

講師：岩崎 正裕

開講式に続いて始まった最初のプログラム。式典前もその後も、受講者20名は言葉を交わすことなく沈黙。マスクのせいもあってか互いの表情が見えないので、話しかける糸口が掴めない様子。もうこれは昨今の日本の文化として定着し始めているようだ。表情に貼りついた氷を少しずつ溶かしていった関わりを見つける行程。まずは自己紹介。それぞれの名前、どのように名付けられたかその由来を語り合う。組織の誰それである前に一個人として互いに認識し合う。シアターゲームを通じて段々とほぐれていき、やっと最後にどこから来た誰で、何を担当しているかをスピーチ。これは前に出て。みんな一様に「緊張する…」と一言。わいわい関われば解放され、自己責任のスピーチはかなりストレス。そのことに気づいた一コマ。



第2日 2月15日(水)

ゼミ2「ダンスワークショップ体験」

講師：セレノグラフィカ

講師はセレノグラフィカの隅地茉歩さんと阿比留修一さん。ダンス表現の最終形態では言葉を発しないが、お二人の語りかけがどんどんその場をほぐしていく。最初は声も身体も使って。意味でなく理由でなく、自己の身体と他者の身体の関わり。みんな触れあうことに飢えていた。最後はそれぞれの名前をモチーフにソロダンス。己れの身体のそこかしこに耳を澄まして、黙して動くことの美しさ。ダンスが企画展示室という何もない空間を満たしていく。氷の表情が張りついた受講者は、もうどこにもいない。



ゼミ3 「ダンス+演劇〜地域へのアプローチ」

講師：セレノグラフィカ、龍 亜希、岩崎 正裕

演劇とダンスのワークショップを終えてその感想を語り合う。劇場に帰れば受講者たちは、アウトリーチのコーディネーターとしての言語化が必要となる。ここからは北九州芸術劇場プロデューサーの龍亜希さんにも加わっていただく。アーティストと制作者の関わり方を共有。セレノグラフィカさんのアウトリーチ事例も紹介。アートに於ける「社会的包摂」が大切なキーワードとして浮かびあがる。市民一人ひとりが、排除や摩擦を遠ざけどのように支え合うか。そのためのアートの力とは。その上で「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の前文を読み込んでみる。「新しい広場」「世界への窓」とは。腑に落ちる自分の言葉に置き換えたとき、身に沁みた生きた言葉となる。制作者のブレない指針の必要性、そのことへの問いかけ。



第3日 2月16日(木)

ゼミ4 「音楽ワークショップ体験」

講師：中川 賢一

音楽鑑賞のみによらない中川賢一さんのプログラム。ドビュッシー「月の光」では照明を暗くして、受講者は寝ころがってみたい。自由な空間設定で楽曲の魅力も増す。調律師外山さんの協力で鍵盤を引き出してテーブルの上へ。みんながハンマーに触れる。受講者は小学生の設定で参加しているのだが、ハンマーに触れ響板に触れるとき、その驚きの表情はまさに子どもたち。ピアノという楽器の仕組みを知り、ムソルグスキー「キエフの大門」を耳と身体で受けとめる。演奏者の指先が、ピアノ内部の機構に伝わる様子を想像しながら。その後は組曲「展覧会の絵」のアナリゼ。ムソルグスキーの生涯と作曲の経緯が、演奏者自らの豊かな言葉で語られる。中川賢一さんの体温が、受講するみんなに伝わっていく。



ゼミ5「音楽+ダンス+演劇～コラボの可能性」

講師：中川 賢一、セレノグラフィカ、岩崎 正裕

ここまでのゼミで、演奏者・ダンサー・演出者によるワークショップを一通り体験した受講者たち。それぞれがアウトリーチコーディネーターとしてアーティストへ質問を投げかける。

Q&Aにより深まる理解。そもそも音楽・ダンス・演劇は分離したジャンルなのか。組曲「展覧会の絵」の中から、阿比留修一さんが「ビドロ」を、隅地茉歩さんが「カタコンベ」を即興で踊ってみる。音楽とダンスの融合は圧巻。そして受講者らも参加して「キエフの大門」を即興的にダンス。実は前日に作られた名前モチーフのソロダンスはこの伏線だった。中川賢一さんの午前中のアナリーゼも相まって、

瞬く間に構成されていく一つの場面。もしこれを観客を入れた発表に繋げるなら、楽曲と楽曲の間に演劇的にアナリーゼを組み込んで構成出来る可能性も。様々なアーティストが出会えば、新しい可能性が広がることを知る体験の一コマ。



ゼミ6「地域と共にある劇場とは～レクチャー&ディスカッション」

講師：龍 亜希、岩崎 正裕

いよいよ受講者ら主導によるディスカッションの始まり。他地域との交流を目的に近隣地域の人たちはバランスよく分かれて20名を4チームに。自分が勤務する劇場の事や地域課題を話し合う内に、自主事業コースによるアウトリーチプログラム発表の時間となって、これを見学。マルシェ弦楽四重奏団の演奏を、どこを想定して誰を対象に届けるか。しっかりと考えられた内容。入門コース受講者からたくさんの質問の声。コース間の交流で上がるモチベーション。見学を終えて、龍亜希さんによる北九州芸術劇場の事例紹介。街中にある様々な場所、人びとの記憶、教育や福祉、企業とのコラボレーション。あらゆる視点が網羅されたプログラムを展開。長い時間をかけて丁寧に構築された事業の数々。さあ、それぞれが勤務する劇場をベースとして、アートの力で地域の将来像をどのように描くか。フラットなディスカッションが続く。



第4日 2月17日(金)

ゼミ7「発表&振り返り」

講師：龍 亜希、岩崎 正裕

5名一組の中から、一つの劇場に絞ってアウトリーチプログラムが作られた。各チーム、大きな模造紙に地域の課題やプログラムのアイデアが書き込まれる。それぞれの地域に共通する問題点は少子高齢化や世代間交流が少ないこと。小美玉市、小川文化センター・アピオスを想定したプログラムは「思い出バスツアー」。地域の歴史ある場所を巡ってパフォーマンスを仕掛け、三世代交流に繋げる。サントミュージゼ・上田市交流文化芸術センターは商店街と連携、街の中に音楽を。豊田市民文化会館は公園に設置された自動車に子どもたちが自由にペイントする想定。ダンスとのコラボ。対馬市上対馬総合文化センターはアートフェスティバルを仕掛ける。島を離れた人びともフェス参加のために戻る想定。龍さんと岩崎で各チームのアイデアを検証。それぞれの地域課題は、私たちが暮らすこの国の課題でもある。様々なワークショップを体験し、柔軟な企画立案に繋げる。実り多い四日間であった。



(2) 自主事業コース

①総評

コーディネーター 田中 玲子
三浦 美弥子

「地域に必要とされる自主事業を、愛情こめて企画制作できるようになりたい方、お待ちしております！」というメッセージで参加を呼びかけた本コース。自主事業の中でも、様々な対象者に向けた「アウトリーチ」をいかにつくっていくか、4日間かけてじっくりと考えてみました。

1日目にダンスのワークショップで身体を動かし、座学で地域のニーズを捉えた自主事業の事例を学び、2日目は音楽のアウトリーチを体験して、それぞれの地域の課題やビジョンを考えてグループでひとつのアウトリーチの企画をつくり、山場となる3日目に弦楽四重奏団のメンバーとグループ毎にアウトリーチをつくらせリハーサルし、発表するという怒涛の流れでしたが、最終日に皆さんがそれぞれ何を持ち帰ることができるか振り返ったところ、様々な気づきや熱い想いを口にしてくれて、コースを通して伝えたいと思ったことが伝わったのだなと感じました。

メディアが発達して、ホールに来なくても手のひらの上のスマホで音楽も手軽に聞けてしまう時代です。でもきっとそれは人間と人間が同じ空間にいて心を響かせ合い何かを感じる体験とは違うはず。親密な空間、少人数、間近で体験できる、けれど必ずしも熱心なファンばかりが集まるわけではないアウトリーチは、こんな時代だからこそ、文化施設の事業としてますます大きな意味を持つのではないかと思います。ですから、参加者には事前課題としてアウトリーチの記録動画を見てきてもらうようなことはあえてせず、実施計画書、レポート、記録写真を見てもらうにとどめ、コースの中で生で見ってもらう、目の前で感じてつくってもらうことにこだわってみました。

講師のセレノグラフィカさんのしなやかなコミュニケーションから生まれた一体感、中川賢一さんの情熱とその裏にある緻密なプログラミング、マルシェ弦楽四重奏団の参加者の想いに共感し何とか形にしようとする真摯さと4人のチームワーク。実際に同じ空間でそれを感じ、いっしょに何かをつくり上げた経験は何にも変えられない貴重なものになったはずです。

「聴き手とアーティストの良きつなぎ手になりましょう」とも呼びかけましたが、私たち自主事業に関わる人間がつなぐのは、人（聴き手）と人（演奏家）なのです。そして人と人をつなぐために必要なのは愛情、熱意です。良い企画には、音楽（芸術）への愛、聴き手への愛、演奏家への愛が必ずあるのではないのでしょうか。

「アーティストといっしょに実際にアウトリーチをつくってみる」ことが核のコースだったため、参加者への事前のアンケートからは「アーティストとの関わり方を学びたい」という声も多くありました。4日間のコースを終えてみて、改めて気づいたのは、アーティストもひとりの人間であり、人と人とのつなぎ手としてやはりお互いが認め合うことが、よりよい企画につながっていくのだということです。セレノグラフィカさんのワークショップで、お二人は要所要所で、ダンスをする参加者に「いいですね」「すてき」と声をかけてくださっていたのですが、それだけでうれしくなってもっと身体を動かせるような気持ちになるのですから不思議です。ピアニストの中川賢一さんへのインタビューの中では、「演奏家もほめられるとうれしいから、ほめてほしい」というお話が出ました。よく練られたすばらしいアウトリーチを見せてくださった後の発言だったので「中川さんでもそんな風に思うのか」と驚きました。マルシェ弦楽四重奏団とのアウトリーチづくりでは、公開リハーサルではお互いに色々改善点を指摘しましたが、最後の発表では「良かったところを見つけてコメントしよう」ということにしました。当初から「共感と、そして共感できなくても認め合

える機会にもなると良い」と言っていたマルシェ弦楽四重奏団からは、後日「最後に良いところを探して振返ったところがとてもよかった。あの時間があると演奏家も自信が持てる。アウトリーチで“聞き手と演奏家で良い時間を過ごす”ために大切なことだと改めて思った」と言っていました。「アーティストとの関わり方」のヒントのひとつを自身で体感できたように思います。改めて講師を務めて下さった皆さまにお礼を申し上げます。実はマルシェ弦楽四重奏団のヴィオラ奏者の福田道子さんが急な体調不良で参加できなくなり、野村英利さん（指揮、作曲、ヴァイオリン、ヴィオラ）が、代役を務めてくださいました。前日のオンラインでの打ち合わせと、当日朝の音楽合わせのリハーサルのみで見事に役割を果たして下さったことに心から感謝いたします。

参加者のおひとりが終了後のアンケートで書いてくださった、「音楽がもつ力をより強く感じる大変贅沢な日々でした」という言葉が、このコースのすべてを表しているように思います。私たちコーディネーターにとっても、気づきの多い楽しい4日間でした。また参加者の皆さまとどこかでお会いして、ごいっしょに音楽で人と人の心が響き合うような体験ができたらと思います。お疲れさまでした！

②ゼミ記録

第1日 2月14日(火)

ゼミ1①「参加者同士打ち解ける」

講師：セレノグラフィカ

「4日間居心地よく過ごし、グループワークに向けて心も身体もほぐれる」目的で、セレノグラフィカのおふたりによるダンスのワークショップを行いました。

参加者19名全員が輪になって、まずは身体を動かしながらリズムに乗ってひとりずつ自己紹介から……ダンス未経験のコーディネーターも含め、皆さんセレノグラフィカのおふたりの導きでなんだか自然に身体が動き、最後は曲にあわせてポーズ！まるでホールで大喝采の中お辞儀をしているような気分を味わいました。

ワークショップで衝撃だったのは、「芸術は私たち皆のもの（なのかも…?）」と自分の身体を通して体感できたこと。「ダンス（芸術）は、難しいものではなく、私にもできることみたい」「身体を動かして人とコミュニケーションを取ることで楽しいんだ」という気づきは、今回のコースのテーマである「アウトリーチ」を考える上で大きなことでした。



ゼミ1②「自主事業としてのアウトリーチの事例を知る」

講師：田中 玲子、三浦 美弥子

自主事業としてのアウトリーチを考えてみるというのが、今回のコース全体のテーマ。その前に、そもそも地域課題からどのようにホール主催公演を含む自主事業を組み立てていくのか、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク活動の2本の柱（第一生命ホール主催公演とコミュニティ活動）の事例を紹介しながら考えました。地域によって特性も課題も違うので、すぐに同じことができるわけではありませんが、大切なのは愛情なのでは、というお話をしました。音楽への愛、演奏家への愛、関わるスタッフへの愛。対象をしっかりと見て、ニーズをくみ取って、愛情込めた企画を考えていきたいものです。参加者のアンケートには「分析方法など大変参考になった」「地域でできることを探っていきたい」と力強い声があり、考え方の手掛かりになったのではないかと思います。



第2日 2月15日(水)

ゼミ2「アウトリーチをつくるにあたっての基礎知識を得る」

講師：中川 賢一

2日の午前中は、ピアニスト中川賢一さんによる小学4年生に向けた45分間のアウトリーチを、参加者19人が子どもになった気持ちで体験してみました。続いて、パワフルで誰もがあつという間に惹き込まれてしまうプログラムの秘密はどこにあるのか？参加者の感想を交えながら中川さんにインタビュー。「音楽はとてもパーソナルなもので、それぞれが自由に受け止めて聴いて欲しい。でも『展覧会の絵』をテーマとしたこのプログラムの中には、人生観、死生観まで通じる物語があり、想いを込めている。聴いた人が各々の角度で受け止められる多様なテーマを“展覧会”を軸にして組み立てている」といったことをお話いただきました。音楽が持っている豊かさ、奥深さ、楽器のおもしろさ、関わる人の想い、それら全部を含めて音楽の素晴らしさを分かち合いたいという中川さんの“情熱”溢れるアウトリーチ体験は、参加者の心に強く響いたようでした。



ゼミ3「グループワーク：アウトリーチを考える」

講師：田中 玲子、三浦 美弥子

午後は、次の日のアウトリーチづくりに向けて4つのグループに分かれてスタート。グループ毎にアウトリーチの企画書を1つ形にしていくために、まずは個人で将来自分の地域がどうなっていてほしいのかビジョンを描いてみました。地域課題をふまえて描く理想の未来（ビジョン）をグループ内で共有するために適格な言葉で説明して人に伝え、共感してもらう感触を経て、自分自身の地域課題もビジョンも見つめ直していきます。それをもとに個人で考えたアウトリーチの企画をグループ内で発表、その中からグループの中で自分たちがもっとも共感できる企画を選び、ひとつの企画書にしていきました。企画書を形にしていく過程で、どのグループも思ったより時間がかかりましたが、誰のため、何のために行うアウトリーチなのかじっくり話し合ったり、自分たちの共通点を探しながらグループ名を考えたりしたことで、チームワークが高まったようです。



第3日 2月16日(木)

ゼミ4「グループワーク：マルシェ弦楽四重奏団とアウトリーチを作る」

講師：マルシェ弦楽四重奏団

いよいよグループ毎にマルシェ弦楽四重奏団メンバーと共に30分間のアウトリーチをつくってみる日です。担当のマルシェ弦楽四重奏団メンバーとアウトリーチを相談、その後、各グループ45分間で公開リハーサルを行いました。

①介護施設のデイサービス利用者とその家族を対象としたアウトリーチ、②小学4年生向けアウトリーチ、③未就学児とその家族向けの企業でのアウトリーチ、④0-3歳児と親のためのアウトリーチ、と対象も目的も様々。リハーサルをしながら対象者役の他グループからのコメントを聞いて、プログラムやスタッフのサポートの仕方、対象を修正し、最後にできあがったアウトリーチを発表しました。お互いが聴き手となって、それぞれのアウトリーチの良かった点を見つけてコメントしあったことや、実際にいっしょにアウトリーチをつくってみて演奏家からフィードバックをもらえたことなどから、聴き手の心に残るアウトリーチとは何か、一日を通してじっくりと考える機会になったのではないかと思います。



4グループの名前とそれぞれがつくった渾身のアウトリーチ、担当演奏家は以下のとおり。

チーム①：カム・カム・エブリバディ

川崎市内デイサービス利用者とその家族のためのアウトリーチ『クラシック・ファミリー・コンサート』

マルシェ弦楽四重奏団担当：野村英利さん（ヴィオラ）

チーム②：チーム No! Memory!

米子市内公立小学校4年生に向けたアウトリーチ『おでかけアーティスト』

マルシェ弦楽四重奏団担当：伊藤七生さん（チェロ）

チーム③：Hum Hum Hum クラシック

未就学児とそのご家族のための企業内でのアウトリーチ

マルシェ弦楽四重奏団担当：藤代優意さん（ヴァイオリン）

チーム④：A.O.（あかるい未来応援団）

2・3歳児と親のための『てくてくタクト！ はじめてのわくわく☆ドキドキ弦楽四重奏』

※リハーサルを経て、2部構成とし対象年齢を絞った。

マルシェ弦楽四重奏団担当：内藤歌子さん（ヴァイオリン）

第4日 2月17日（金）

ゼミ5「リフレクション」

講師：田中 玲子、三浦 美弥子

最終日は、前日にアーティストと一緒に作ったアウトリーチについて振り返ってみました。お互いのチームの発表を体験して気づいたことをフィードバックし合ったり、同じチーム内でも気づきを共有することで、新たな発見もあったのではないのでしょうか。各チームが特に掘り下げて話し合いたいと選んだテーマは「アーティストとの関わり方」「地域の課題を解決するためのさらなる改善点」など。うまくいったこと、うまくいかなかったこと、それはなぜか？ 背景にあったものや目指していたもの、次にどうしたいか？ などを考えながら、じっくりと落とし込んでいきました。

最後はこれまでの4日間を踏まえ、決意表明。「愛を持って！」「熱意を伝える！」「地域を知る！」「ドキドキ、ワクワクを忘れない！」「こんなに熱意を持っている仲間、アーティストの出会いがあったことが宝物！」と、熱い気持ちを分かち合いました。



IV ステージラボ 川崎セッション

4 共通プログラム

みんなのオルガン「ミューザ川崎シンフォニーホールのパイプオルガン事業見本市」

(1) 日時・会場

令和5年2月15日(水) 17:30～19:30 ミューザ川崎シンフォニーホール

(2) 講師・出演

大木麻理(ミューザ川崎シンフォニーホール・ホールオルガニスト)

佐藤友紀(東京交響楽団・首席トランペット奏者)

(3) 概要及び目的

ミューザ川崎シンフォニーホールでは、国内最大級のパイプオルガンを有するホールとして、オルガンファン・聴衆の拡大もさることながら、オルガニストの育成事業など幅広い事業展開をするとともに、ホールのミッションである「誰もが音楽を楽しめる環境づくり」を実現するため普及啓発事業にも力を入れています。ホールオルガニストの大木麻理氏のご案内でオルガンを使った特徴のある取り組みをご紹介しますとともに、フランチャイズオーケストラの東京交響楽団トランペット奏者の佐藤友紀氏をお招きしコンサートもお楽しみいただきました。

(4) 内容

国内最大級のパイプオルガンを有するホールとして、パイプオルガンの魅力を参加者の方に存分にお楽しみいただくという趣旨で、ホールオルガニストの大木麻理氏の案内で『聴く』『参加する』『体験する』の3つの内容をご用意しました。

『聴く』では、川崎市のフランチャイズオーケストラである東京交響楽団の首席トランペット奏者の佐藤友紀氏をゲストに迎え、C.フランク：天使の糧、W.A.モーツァルト：小さなジグ K574、J.S.バッハ：いざ来ませ、異邦人の救い主よ BWV659 など全6曲を軽妙なトークを交えて、約1時間のコンサートをたっぷり楽しんでいただきました。また、ホールの特徴でもあるヴィンヤード形式の客席も同時にお楽しみいただくため、オルガン公演では通常開放しないエリアも含め、好きな席を選んで座っていただくという方法も取りました。

『参加する』では、ホールの名物企画となっている「オルガンラジオ体操」をパイプオルガンの演奏とミューザバージョンのナレーションにあわせて参加いただきました。

『体験する』では、コースごとに分かれていただき、ミューザのパイプオルガンの体験会を行いました。メインとなるパイプオルガンの他、移動可能なポジティブ・オルガン、ホールの開場を告げるストリートオルガンをバックステージ見学と併せて体験いただきました。

大きなパイプオルガンを見るのも聴くのも触るのも初めてという方もいらっしゃる、すべてのコーナーで大変盛り上がりしていたのではと感じました。また、大オルガンで指導にあたったホールオルガニストの大木氏は、「これまでやってきたどの体験会よりも意欲的な方が多く、さすが劇場で働く方々はパワーが違いますね！」との感想を述べていました。

ポジティブ・オルガンのコーナーでは、オルガンビルダー(製作者)のマチュ・ガルニエ氏がユーモアを交えながら説明を行い、これまで行ってきたワークショップなども紹介しながら、ポジティブ・オルガンを用いることでパイプオルガンを持たない劇場でも新しい事業を展開することが可能になるというお話をしました。

今回のプログラムを通して、パイプオルガンの魅力を感じ取っていただけたらとてもうれしく思いますし、ポジティブ・オルガンなどを活用することで、事業の幅が広がることを知っていただけたら幸いです。



V 参加者リスト

V 参加者リスト

1 ステージラボ 大分セッション

(1) ホール入門コース

01.北海道	おおた ちえ 太田 千恵	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 管理課業務係	札幌市教育文化会館 開館年 1977 年 大ホール 1,100席/3,008㎡ 小ホール 360席/990㎡ 研修室8室 -席/-㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 1	〒 060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5821 / FAX 011-271-1916	
01.北海道	こだま まい 児玉 麻衣	公益財団法人札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 管理課 管理係	札幌市民交流プラザ 開館年 2018 年 札幌文化芸術劇場hitaru 2,302席/1,535㎡ クリエイティブスタジオ 最大228席/448㎡ 札幌文化芸術交流センター SCARTSコート 最大126席/165㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上
	No. 2	〒 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 TEL 011-271-1000 / FAX 011-242-5656	
01.北海道	ちば えりな 千葉 絵理奈	NPO法人ハマナスアート 総務課受付係	まなみーる岩見沢市民会館・文化センター 開館年 1983 年 大ホール 1,165席/1,721.25㎡ 中ホール 514席/1,076㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 3	〒 068-0029 岩見沢市9条西4丁目1-1 TEL 0126-22-4233 / FAX 0126-25-9092	
03.岩手県	いしかわ さおり 石川 沙織	一般社団法人おらが大槌夢広場 大槌町文化交流センター おしゅっち	大槌町文化交流センター おしゅっち 開館年 2019 年 多目的ホール 136席/ 252㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
	No. 4	〒 028-1117 上閉伊郡大槌町末広町1-15 TEL 0193-27-5181 / FAX 0193-27-5182	
03.岩手県	さの かおる 佐野 薫	一般社団法人おらが大槌夢広場 大槌町文化交流センター おしゅっち	大槌町文化交流センター おしゅっち 開館年 2019 年 多目的ホール 136席/252㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
	No. 5	〒 028-1117 上閉伊郡大槌町末広町1-15 TEL 0193-27-5181 / FAX 0193-27-5182	
06.山形県	さいとう たくみ 斉藤 巧	酒田市役所 教育委員会社会教育文化課文化芸術係・主事	希望ホール（酒田市民会館） 開館年 2004 年 大ホール 1,287席/988㎡ 小ホール 150席/180㎡ 練習室1 50席/138㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 6	〒 998-0043 酒田市本町2丁目2番10号 TEL 0234-24-2982 / FAX 0234-26-5452	
08.茨城県	そうざわ らな 相沢 蘭奈	公益財団法人日立市民科学文化財団 交流事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 7	〒 317-0073 日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7970	
23.愛知県	おかだ ゆうじ 岡田 優史	長久手市 主事	長久手市文化の家 開館年 1999 年 森のホール 711席/1,731㎡ 風のホール 292席/1,064㎡ 光のホール 80席/26.64㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 8	〒 480-1166 長久手市野田農201番地 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510	

24.三重県	しんたく まき 新宅 真希	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団 事業	イスのサンケイホール鈴鹿 開館年 1968 年 イスのサンケイホール鈴鹿 1,278席/5,980㎡
	No. 9	〒 513-0801 鈴鹿市神戸1丁目18-18 TEL 059-390-3280 / FAX 059-390-1214	イスのサンケイホール鈴鹿2階 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
27.大阪府	さかもと ゆう 坂元 優	公益財団法人茨木市文化振興財団 文化事業係	茨木市民総合センター（クリエイトセンター） 開館年 1989 年 センターホール（クリエイトセンター） 426席/744.77㎡ 多目的ホール 165席/228.98㎡
	No. 10	〒 567-0888 茨木市駅前4丁目6番16号 TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036	自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
28.兵庫県	いけだ たくや 池田 卓也	養父市 市民生活部 まちづくり文化交流課	養父市立やぶ市民交流広場 開館年 2021 年 やぶ市民交流広場 ホール 651席/4,209㎡
	No. 11	〒 667-0021 養父市八鹿町八鹿538番地1 TEL 079-662-0071 / FAX 079-662-2299	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
32.島根県	きくや のりこ 菊屋 典子	公益財団法人しまね文化振興財団 島根県芸術文化センター「グラントワ」 いわみ芸術劇場 文化事業課 主事	島根県芸術文化センター「グラントワ」 開館年 2005 年 しまね芸術劇場大ホール 1,500席/342㎡ しまね芸術劇場小ホール 400席/156㎡
	No. 12	〒 698-0022 益田市有明町5-15 TEL 0856-31-1866 / FAX 0856-31-1884	自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
40.福岡県	てしま まいこ 手嶋 麻衣子	公益財団法人大野城まどかびあ 文化芸術振興課文化芸術担当	大野城まどかびあ 開館年 1996 年 大ホール 798席/1,279㎡ 小ホール 118席/208㎡ 多目的ホール 300席/279㎡
	No. 13	〒 816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号 TEL 092-586-4000 / FAX 092-586-4021	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
41.佐賀県	のりた ともみ 乗田 智美	一般財団法人鹿島市民立生涯学習・文化振興財団 事業部	鹿島市生涯学習センター・エイブル 開館年 2001 年 エイブルホール 298席/882㎡ 研修室（会議室） 130席/185㎡ いきいきルーム 80席/125㎡
	No. 14	〒 849-1312 鹿島市大字納富分2700-1 TEL 0954-63-2138 / FAX 0954-63-3424	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
42.長崎県	むらた りょう 村田 峻	長崎市役所 市民生活部文化振興課	長崎ブリックホール 開館年 1998 年 大ホール 2,002席/1,791㎡ 国際会議場 542席/486㎡
	No. 15	〒 852-8104 長崎市茂里町2-38 長崎ブリックホール4階 TEL 095-842-3782 / FAX 095-842-3784	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
42.長崎県	たちばな ほなみ 橘 穂奈美	一般財団法人大村市文化・スポーツ振興財団 事業部	大村市体育文化センター（シーハットおおむら） 開館年 1998 年 さくらホール 500席/891㎡
	No. 16	〒 856-0836 大村市幸町25-33 TEL 0957-20-7200 / FAX 0957-20-7203	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

44.大分県	ささだ ももな 笹田 桃菜	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 企画普及課 事務員	iichiko総合文化センター 開館年 1996 年 iichikoグランシアタ 1,966席/10,400㎡
	No. 17 〒 870-0029 大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4009		iichiko音の泉ホール 710席/5,184㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

44.大分県	さかもと ひじり 坂本 聖莉	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 企画普及課 事務員	iichiko総合文化センター 開館年 1996 年 iichikoグランシアタ 1,966席/10,400㎡
	No. 18 〒 870-0029 大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4009		iichiko音の泉ホール 710席/5,184㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

44.大分県	ふじた さき 藤田 咲	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 企画普及課 事務員	iichiko総合文化センター 開館年 1996 年 iichikoグランシアタ 1,966席/10,400㎡
	No. 19 〒 870-0029 大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4009		iichiko音の泉ホール 710席/5,184㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

44.大分県	くまがい るり 熊谷 瑠莉	公益財団法人竹田市文化振興財団 企画制作班	竹田市総合文化ホール グランツたけた 開館年 2018 年 廉太郎ホール (大ホール) 713席/3,153㎡
	No. 20 〒 878-0024 竹田市大字玉来1番地1 TEL 0974-63-4837 / FAX 0974-63-2211		キナーレ (多目的ホール) 170席/277㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

(2) 自主事業コース

01.北海道	ごうけ あやの 郷家 綾乃	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 事業課市民芸術祭係	札幌市教育文化会館 開館年 1977 年 大ホール 1,100席/3,008㎡ 小ホール 360席/990㎡ 研修室8室 -席/-㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 1	〒 060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5822 / FAX 011-271-1916	
01.北海道	すずき あや 鈴木 彩	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部 創作普及課 工房係	札幌芸術の森 開館年 1986 年 札幌芸術の森美術館 -席/3,370㎡ 野外美術館 -席/75,000㎡ アートホール -席/5,834㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 2	〒 005-0864 札幌市南区芸術の森2丁目75番地 TEL 011-592-4122 / FAX 011-591-0094	
01.北海道	ほんだ なつこ 本田 夏子	公益財団法人札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部事業課事業係 事務職員	札幌コンサートホール 開館年 1997 年 大ホール 2,008席/28,800㎡ 小ホール 453席/6,000㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 3	〒 064-0931 札幌市中央区中島公園1番15号 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575	
01.北海道	かわはら あきえ 河原 明恵	特定非営利活動法人ゆう 総務企画	砂川市地域交流センターゆう 開館年 2007 年 大ホール 500席/686㎡ ミニホール 100席/138㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 4	〒 073-0153 砂川市東3条北2丁目3-3 TEL 0125-54-3111 / FAX 0125-54-3119	
08.茨城県	あおぬま ひろこ 青沼 広子	公益財団法人日立市民科学文化財団 ホール事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 5	〒 317-0073 日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7970	
13.東京都	よしだ いさと 吉田 伊里	公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団 文化事業部 文化施設課	武蔵野スイングホール 開館年 1996 年 スイングホール 180席/205㎡ スカイルーム(会議室) 114席/236㎡ レインボーサロン(レセプションルーム) 160～300席/375㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 6	〒 180-0001 武蔵野市吉祥寺北町5丁目11番20号 TEL 0422-56-2200 / FAX 0422-51-5493	
14.神奈川県	たに しゅんや 谷 峻哉	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜赤レンガ倉庫1号館ホール&スペース 開館年 2002 年 3Fホール 444席/426㎡ 2Fスペース -席/558㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 7	〒 231-0023 横浜市中区山下町2丁目 産業貿易センタービル1階 TEL 045-221-0212 / FAX 045-221-0216	
14.神奈川県	たけいち こずえ 武市 梢	特定非営利活動法人チーム杉劇 事業担当	横浜市磯子区民文化センター杉田劇場 開館年 2005 年 ホール 310席/510㎡ ギャラリー -席/100㎡ リハーサル室(コスモス) 60席/100㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 8	〒 235-0033 横浜市磯子区杉田1-1-1(らびすた新杉田4階) TEL 045-771-1212 / FAX 045-770-5656	

21.岐阜県	えがみ てつや 江上 哲哉	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団 岐阜市文化センター 事務グループ 副主任	岐阜市文化センター 開館年 1984 年 催し広場 2,000席/1,275㎡ 小劇場 500席/329㎡
	No. 9	〒 500-8842 岐阜市金町5丁目7番地2 TEL 058-262-6200 / FAX 058-262-6229	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
27.大阪府	まえだ ひとみ 前田 瞳	株式会社JTBコミュニケーションデザイン エリアマネジメント部 西日本事業局	豊中市立文化芸術センター 開館年 2017 年 大ホール 1,344席/5,709㎡ 中ホール (アクア文化ホール) 441席/1,245㎡ 小ホール 202席/327㎡
	No. 10	〒 541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル 8階 TEL 06-4964-8830 / FAX 06-4964-8808	自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
27.大阪府	おおきた あきひろ 大北 彰宏	公益財団法人河内長野市文化振興財団 事業グループ	河内長野市立文化会館 (ラプリーホール) 開館年 1992 年 大ホール 1,308席/583㎡ 小ホール 464席/320㎡ ギャラリー -席/180㎡
	No. 11	〒 586-0016 河内長野市西代町12-46 TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111	自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
28.兵庫県	やまさき りさ 山崎 理沙	特定非営利活動法人コミュニティアートセンターブラッツ テクニカル	豊岡市民プラザ 開館年 2004 年 ほっとステージ 250席/381㎡
	No. 12	〒 668-0031 豊岡市大手町4-5アイティ7F TEL 0796-34-6078 / FAX 0796-24-3004	自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
33.岡山県	いななみ ちか 稲浪 知佳	公益財団法人岡山文化芸術創造 -	岡山シンフォニーホール 開館年 1991 年 大ホール 2,001席/10,054㎡ イベントホール 200席/150㎡ 和風ホール 100席/133.2㎡
	No. 13	〒 700-0822 岡山市北区表町1-5-1 TEL 086-234-2001 / FAX 086-234-1968	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
33.岡山県	かさぎ あやか 笠木 綾加	勝央町教育委員会 勝央町教育委員会教育振興部 主事	勝央文化ホール 開館年 2004 年 勝央文化ホール 670席/2,265㎡
	No. 14	〒 709-4316 勝田郡勝央町勝間田200-1 TEL 0868-38-1753 / FAX 0868-38-2580	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
40.福岡県	なかの はるか 中野 陽花	公益財団法人大野城まどかびあ 文化芸術振興課文化芸術担当	大野城まどかびあ 開館年 1996 年 大ホール 798席/1,279㎡ 小ホール 118席/208㎡
	No. 15	〒 816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号 TEL 092-586-4000 / FAX 092-586-4021	自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	なかむら たけひろ 中村 健宏	公益財団法人宗像ユリックス 事業部 リーダー	宗像ユリックス 開館年 1988 年 イベントホール 2,309席/1,260㎡ ハーモニーホール 662席/793㎡ 美術ギャラリー (展示室1,2,3) 150席/373㎡
	No. 16	〒 811-3437 宗像市久原400 TEL 0940-37-1483 / FAX 0940-37-1359	自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

43.熊本県	みやもと ほしと	公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ 主事	熊本県立劇場
	宮本 帆士魁		開館年 1982 年
No. 17	〒 862-0971 熊本市中央区大江2丁目7番1号 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		コンサートホール 1,810席/1,260㎡ 演劇ホール 1,172席/780㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
44.大分県	いしまつ みちこ	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 広報・連携推進課 事務員	iiichiko総合文化センター
	石松 未千子		開館年 1996 年
No. 18	〒 870-0029 大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4007 / FAX 097-533-4009		iiichikoグランシアタ 1,966席/10,400㎡ iiichiko音の泉ホール 710席/5,184㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上
44.大分県	だて なつき	公益財団法人竹田市文化振興財団 企画制作班	竹田市総合文化ホール グランツたけた
	伊達 奈都紀		開館年 2018 年
No. 19	〒 878-0024 竹田市大字玉来1番地1 TEL 0974-63-4837 / FAX 0974-63-2211		廉太郎ホール (大ホール) 713席/3,153㎡ キナレ (多目的ホール) 170席/277㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
45.宮崎県	たるみず しおり	公益財団法人宮崎県立芸術劇場 企画広報課 企画制作係	メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
	垂水 紫織		開館年 1993 年
No. 20	〒 880-8557 宮崎市船塚3丁目210番地 TEL 0985-28-3208 / FAX 0985-20-6670		コンサートホール(アイザックスターンホール) 1,818席/215㎡ 演劇ホール 1,112席/848㎡ イベントホール 300席/280㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
45.宮崎県	ふくとよ ゆま	公益財団法人都城市文化振興財団 事業課	都城市総合文化ホール
	福豊 由真		開館年 2006 年
No. 21	〒 885-0024 都城市北原町1106-100 TEL 0986-23-7140 / FAX 0986-23-7143		大ホール「きりしま」 1,461席/1,607㎡ 中ホール「あさぎり」 682席/809㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

(3) 公立ホール・劇場マネージャーコース

06.山形県	かとう ひろし 加藤 浩	酒田市 社会教育文化課主査兼係長	希望ホール（酒田市民会館） 開館年 2004 年 大ホール 1,287席/988㎡ 小ホール 150席/180㎡ 練習室1 50席/138㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 1 〒 998-0043 酒田市本町2丁目2番10号 TEL 0234-24-2982 / FAX 0234-26-5452		
14.神奈川県	いいだ よしみ 飯田 吉実	公益財団法人川崎市文化財団 ミュージア川崎シンフォニーホール 経営管理課 担当係長	ミュージア川崎シンフォニーホール 開館年 2004 年 音楽ホール 1,997席/260㎡ 市民交流室 150席/136.5㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 2 〒 212-8557 川崎市幸区大宮町1310 TEL 044-520-0100 / FAX 044-520-0103		
22.静岡県	ゆきおか じゅん 雪岡 純	公益財団法人静岡県舞台芸術センター 制作部 営業班チーフ 兼 アウトリーチ班	静岡芸術劇場（グランシップ内）、静岡県舞台芸術公園 開館年 1997 年 静岡芸術劇場 401席/265㎡ 舞台芸術公園 野外劇場「有度」 400席/231㎡ 舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」 100席/231㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 3 〒 422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1（静岡芸術劇場） TEL 054-203-5730 / FAX 054-203-5732		
33.岡山県	あさの みつまさ 浅野 光正	倉敷市 文化振興課・課長代理	倉敷市民会館ほか 開館年 2025 年 倉敷市民会館 1,979席/10,662.57㎡ 倉敷市芸文館 885席/11,275.49㎡ 倉敷市玉島文化センター 1,000席/4,070.52㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 4 〒 710-8565 倉敷市西中新田640 TEL 086-426-3075 / FAX 086-421-0107		
39.高知県	やました ゆうや 山下 裕矢	香南市生涯学習課 夜須公民館マリンホール 館長	夜須公民館マリンホール 開館年 1984 年 マリンホール 610席/-㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 5 〒 780-0901 香南市夜須町坪井219 TEL 0887-54-2121 / FAX 0887-54-1266		
40.福岡県	とみなが あさこ 富永 麻子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場 響ホール 開館年 2003 年 北九州芸術劇場（大ホール） 1,301席/8,026㎡ 北九州芸術劇場（中劇場） 700席/5,496㎡ 響ホール 720席/3,584㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 6 〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1番1号 リバーウォーク北九州5F TEL 093-562-3027 / FAX 093-562-3029		
40.福岡県	まなこ かつひこ 眞子 克彦	久留米市役所 久留米シティプラザ担当次長兼総務課長	久留米シティプラザ 開館年 2016 年 ザ・グランドホール 1,514席/2,945.65㎡ 久留米座 399席/977.24㎡ Cボックス 144席/364.04㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 7 〒 830-0031 久留米市役所六ツ門町8-1 TEL 0942-36-3081 / FAX 0942-36-3087		
43.熊本県	さとう ななえ 佐藤 奈々絵	公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ長兼舞台技術グループ長	熊本県立劇場 開館年 1982 年 コンサートホール 1,810席/2,244㎡ 演劇ホール 1,172席/1,761㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 8 〒 862-0971 熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		

43.熊本県	みやけ いくこ	公益財団法人熊本県立劇場 事務局次長	熊本県立劇場	
	宮家 郁子		開館年 1982 年	コンサートホール 1,810席/2,244㎡
No. 9	〒 862-0971 熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2234 / FAX 093-371-5246		演劇ホール	1,172席/1,761㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
43.熊本県	たかた だいすけ	NPO法人宇土の文化を考える市民の会 ホールマネージャー	宇土市民会館	
	高田 大介		開館年 1972 年	大ホール 729席/447㎡
No. 10	〒 869-0433 宇土市新小路町123 TEL 0964-22-0188 / FAX 0964-22-0189		大会議室	100席/189㎡
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
45.宮崎県	よしだ まさひろ	公益財団法人門川ふるさと文化財団 主事	門川町総合文化会館	
	吉田 将大		開館年 1991 年	大ホール 692席/2,690㎡
No. 11	〒 889-0616 東臼杵郡門川町南町6丁目1番地 TEL 0982-63-0002 / FAX 0982-63-5048			
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

V 参加者リスト

2 ステージラボ 川崎セッション

(1) ホール入門コース

01.北海道	ながやま よう 長山 瑛	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部管理課業務係	札幌芸術の森 開館年 1986 年 札幌芸術の森美術館 -席/3,370㎡ 野外美術館 -席/75,000㎡ アートホール -席/5,834㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 1	〒 005-0864 札幌市南区芸術の森2丁目75番地 TEL 011-592-5111 / FAX 011-592-4120	
04.宮城県	わたなべ かずひろ 渡邊 一弘	仙南地域広域行政事務組合 仙南芸術文化センター（えずこホール） 主幹兼総務係長	仙南芸術文化センター（えずこホール） 開館年 1996 年 大ホール 802席/192㎡ 平土間ホール 300席/210㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
	No. 2	〒 989-1267 宮城県柴田郡大河原町字小島1-1 TEL 0224-52-3004 / FAX 0224-51-1130	
07.福島県	くぼき としき 久保木 俊樹	いわき市 いわき芸術文化交流館 施設管理課	いわき芸術文化交流館 開館年 2008 年 大ホール 1,705席/9,190.18㎡ 中劇場 687席/4,405.59㎡ 小劇場 233席/2,174.43㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 3	〒 970-8026 福島県いわき市平字三崎1番地の6 TEL 0246-22-8111 / FAX 0246-22-8181	
08.茨城県	はらだ なるみ 原田 成美	小美玉市 市民生活部生活文化課 主事	小川文化センター アピオス 開館年 1982 年 大ホール 1,081席/-㎡ 小ホール 200席/-㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 4	〒 311-3423 茨城県小美玉市小川225 TEL 0299-58-0921 / FAX 0299-58-0923	
14.神奈川	かさい たかし 笠井 孝志	平塚市 文化・交流課 主事	ひらしん平塚文化芸術ホール 開館年 2022 年 大ホール 1,200席/-㎡ 多目的ホール -席/251.1㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
	No. 5	〒 254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1 TEL 0463-32-2235 / FAX 0463-21-9756	
16.富山県	たかはし やすし 高橋 康	公益財団法人富山県文化振興財団 富山県民会館 ホール担当	富山県民会館 開館年 1964 年 富山県民会館 ホール 1,108席/-㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
	No. 6	〒 930-0006 富山県富山市新総曲輪4番18号 TEL 076-432-3113 / FAX 076-432-2024	
20.長野県	にわかかわ はづき 庭川 葉月	上田市 政策企画部交流文化芸術センター 音楽事業担当	サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター 開館年 2014 年 大ホール 1,530席/920㎡ 小ホール 320席/240㎡ 大スタジオ 平土間/250㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
	No. 7	〒 386-0025 長野県上田市天神3丁目15番15号 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310	
20.長野県	だんじょう しづき 檀上 しづき	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 管理課総務担当 主事	長野市芸術館 開館年 2016 年 メインホール 1,292席/4,130㎡ リサイタルホール 293席/1,170㎡ アクトスペース 230席/440㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 8	〒 380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地 TEL 026-219-3100 / FAX 026-219-3110	

20.長野県	いちおか かずえ	長野県文化振興事業団	長野県伊那文化会館
	市岡 一恵	長野県伊那文化会館 事業課 主事	開館年 1988 年
No. 9	〒 396-0026		大ホール 1,371席/-㎡
	長野県伊那市西町5776		小ホール 436席/420㎡
	TEL 0265-76-8822 / FAX 0265-73-8599		美術展示ホール -席/522㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
20.長野県	やまだ みほ	中野市	中野市市民会館
	山田 美保	くらしと文化部文化スポーツ振興課文化振興係 副主幹	開館年 1969 年
No. 10	〒 383-8614		ホール 1,012席/1,100㎡
	長野県中野市三好町一丁目3番19号		
	TEL 0269-22-2111 (内線394) / FAX 0269-22-2295		自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
22.静岡県	やまもと れいな	静岡市文化振興財団	静岡音楽館AOI
	山本 れいな	契約職員	開館年 1995 年
No. 11	〒 420-0851		静岡音楽館AOI 618席/676㎡
	静岡市葵区黒金町1-9		
	TEL 054-251-2200 / FAX 054-253-3322		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
23.愛知県	まつばやし さき	長久手市	長久手市文化の家
	松林 沙紀	長久手市くらし文化部生涯学習課事業係 主事	開館年 1998 年
No. 12	〒 480-1166		森のホール 711席/-㎡
	愛知県長久手市野田農201番地		風のホール 292席/-㎡
	TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		光のホール 80席/-㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
23.愛知県	すずき たかみ	豊田市文化振興財団	豊田市民文化会館
	鈴木 崇己	豊田市民文化会館 書記	開館年 1975 年
No. 13	〒 471-0035		大ホール 1,708席/6,513㎡
	愛知県豊田市小坂町12-100		小ホール 436席/1,782㎡
	TEL 0565-33-7111 / FAX 0565-35-4801		展示室 -席/593㎡
			自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
28.兵庫県	かきぞえ まお	NPO法人プラッツ	豊岡市民プラザ
	垣添 真央	技術担当	開館年 2004 年
No. 14	〒 668-0031		ほっとステージ 250席/236㎡
	兵庫県豊岡市大手町4-5 アイティ7階		
	TEL 0796-24-3000 / FAX 0796-24-3004		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
28.兵庫県	ひらかわ みつえ	神戸市民文化振興財団	神戸アートビレッジセンター
	平川 光江	演劇・ダンス事業担当	開館年 1996 年
No. 15	〒 652-0811		KAVCホール 216席/303㎡
	神戸市兵庫区新開地5丁目3番14号		
	TEL 078-512-5500 / FAX 078-512-5356		自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
31.鳥取県	たかはし あゆみ	公益財団法人とっとりコンベンションビューロー	米子コンベンションセンター
	高橋 歩美	施設利用担当	開館年 1998 年
No. 16	〒 683-0043		多目的ホール 2,004席/1,879㎡
	鳥取県米子市末広町294		小ホール 300席/-㎡
	TEL 0859-35-8111 / FAX 0859-39-0700		自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満

31.鳥取県	なかむら ゆき 中村 友紀	公益財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館 事業推進室・主査	わらべ館 開館年 1995 年 いべんとほーる 200席/57.65㎡
	No. 17	〒 680-0022 鳥取県鳥取市西町3丁目202 TEL 0857-22-7070 / FAX 0857-22-3030	自主事業 d. 21本以上 事業予算
40.福岡県	おおば みなこ 大羽 美菜子	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 劇場事業課	北九州芸術劇場 開館年 2003 年 大ホール 1,269席/8,026㎡ 中劇場 700席/5,496㎡ 小劇場 96~216席/1,285㎡
	No. 18	〒 803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	いとう みき 伊藤 未紀	久留米市 市民文化部 久留米シティプラザ 事業制作課 会計年度任用職員	久留米シティプラザ 開館年 2016 年 ザ・グランドホール 1,514席/-㎡ 久留米座 399席/-㎡ Cボックス 144席/-㎡
	No. 19	〒 830-0031 福岡県久留米市六ツ門町8-1 TEL 0942-36-3084 / FAX 0942-36-3087	自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
42.長崎県	しょうじ えりか 庄司 絵里加	対馬市 島おこし協働隊 コミュニティ支援 北部地域担当	対馬市上対馬総合センター 開館年 1992 年 上対馬総合センター文化ホール 500席/624㎡
	No. 20	〒 817-1701 長崎県対馬市上対馬町比田勝575番地1 TEL 0920-86-3111 / FAX 0920-86-4529	自主事業 a. 0本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

(2) 自主事業コース

04.宮城県	わかばやし あいこ 若林 あい子	仙南地域広域行政事務組合 仙南芸術文化センター（えずこホール） 主事	仙南芸術文化センター（えずこホール） 開館年 1996 年 大ホール 802席/192㎡ 平土間ホール 300席/210㎡
	No. 1 〒 989-1267 宮城県柴田郡大河原町小島1-1 TEL 0224-52-3004 / FAX 0224-51-1130		自主事業 b. 1本～10本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
06.山形県	いからし さき 五十嵐 咲紀	タクトつるおか共同企業体 事業企画 主事	鶴岡市文化会館(荘銀タクト鶴岡) 開館年 2018 年 大ホール 1,120席/1,700㎡ 小ホール 180席/247㎡
	No. 2 〒 997-0035 山形県鶴岡市馬場町11番61号 TEL 0235-24-5188 / FAX 0235-25-7611		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
08.茨城県	もりもと ゆい 森本 裕衣	公益財団法人日立市民科学文化財団 ホール事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡
	No. 3 〒 317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7755 / FAX 0294-24-7979		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
08.茨城県	しまだ あやの 嶋田 彩乃	小美玉市 文化スポーツ振興部生活文化課 主事	四季文化館みの～れ 開館年 2002 年 森のホール 600席/-㎡ 風のホール 250席/255.45㎡
	No. 4 〒 319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467		自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
08.茨城県	たや はやと 田谷 隼人	公益財団法人つくば文化振興財団 企画課・主任	つくばカピオ 開館年 1996 年 アリーナ 2,736席/1,360㎡ ホール 384席/-㎡
	No. 5 〒 305-0032 茨城県つくば市竹園1-10-1 TEL 029-856-7007 / FAX 029-856-7009		自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
11.埼玉県	ごい さとる 午居 悟	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 企画総務課 主事	さいたま市文化センター 開館年 1985 年 さいたま市文化センター 大ホール 2,006席/1,725㎡ さいたま市文化センター 小ホール 340席/369㎡
	No. 6 〒 336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3259 / FAX 048-837-2572		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
12.千葉県	なみた きょうこ 浪田 恭子	株式会社コンベンションリンケージ 浦安音楽ホール	浦安音楽ホール 開館年 2017 年 コンサートホール 300席/88㎡ ハーモニーホール 200席/176㎡
	No. 7 〒 279-0012 千葉県浦安市入船1-6-1 TEL 047-382-3035 / FAX 047-382-3036		自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
13.東京都	たけうち えみこ 竹内 恵美子	公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団 くにたち市民芸術小ホール	くにたち市民芸術小ホール 開館年 1987 年 ホール 270席/-㎡ スタジオ 70席/-㎡ 音楽練習室 50席/-㎡
	No. 8 〒 186-0003 東京都国立市富士見台2-48-1 TEL 042-574-1515 / FAX 042-574-1513		自主事業 c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満

13.東京都	さの ゆりこ 佐野 百合子	公益財団法人大田区文化振興協会 文化芸術振興課	大田区民プラザ 開館年 1987 年 大ホール 511席/901.3㎡
	No. 9	〒 146-0092 東京都大田区下丸子3-1-3 TEL 03-3750-1611 / FAX 03-3750-1150	小ホール 150席/198㎡ 展示室 200席/372.9㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
13.東京都	くさがや さやか 草ヶ谷 冴香	公益財団法人としま未来文化財団 事業制作部 事業企画課 事業企画グループ	としま区民センター 開館年 施設により異なる 年 東京建物 Brillia HALL (豊島区立舞台文化劇場) 1,300席/2,983.59㎡
	No. 10	〒 170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-10としま区民センター4F TEL 03-3590-7118 / FAX 03-3984-0865	あうるすばっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 301席/3,000㎡ 池袋西口公園野外劇場 グローバルリングシアター -席/3,123㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
13.東京都	みこしば のはら 御子柴 のはら	公益財団法人としま未来文化財団 事業制作部 事業企画課 事業企画グループ	としま区民センター 開館年 施設により異なる 年 東京建物 Brillia HALL (豊島区立舞台文化劇場) 1,300席/2,983.59㎡
	No. 11	〒 170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-10としま区民センター4F TEL 03-3590-7118 / FAX 03-3984-0865	あうるすばっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 301席/3,000㎡ 池袋西口公園野外劇場 グローバルリングシアター -席/3,123㎡ 自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
14.神奈川県	なかはら ひさし 中原 弥	公益財団法人横須賀芸術文化財団 業務部 事業課	横須賀芸術劇場 開館年 1995 年 大劇場 1,806席/1,814㎡
	No. 12	〒 238-0041 神奈川県横須賀市本町3-27 TEL 046-828-1602 / FAX 046-828-1623	小劇場 -席/432㎡ 大リハーサル室 -席/304㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
15.新潟県	ひらた ちはる 平田 千春	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業企画部 音楽企画課	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 開館年 1998 年 コンサートホール 1,884席/-㎡
	No. 13	〒 951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番地2 (白山公園内) TEL 025-224-7000 / FAX 025-224-5626	劇場 868席/-㎡ 能楽堂 382席/-㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
16.富山県	まるやま あや 丸山 礼	公益財団法人黒部市国際文化センター 主事	黒部市国際文化センター 開館年 1995 年 カーターホール 886席/1,390㎡
	No. 14	〒 938-0031 富山県黒部市三日市20 TEL 0765-57-1201 / FAX 0765-57-1207	マルチホール 200席/242㎡ 自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
27.大阪府	まつもと みゆう 松本 美憂	公益財団法人茨木市文化振興財団 文化事業係 職員	茨木市市民総合センター 開館年 1989 年 センターホール (クリエイティブセンター) 426席/744.77㎡
	No. 15	〒 567-0888 大阪府茨木市駅前4丁目6番16号 TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036	多目的ホール 165席/228.98㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満
28.兵庫県	きたの ゆうこ 北野 裕子	公益財団法人姫路市文化国際交流財団 制作チーム 囀託員	バルナソスホール 開館年 1989 年 バルナソスホール 811席/-㎡
	No. 16	〒 670-0083 兵庫県姫路市辻井9丁目1-10 TEL 090-5011-3105 / FAX 079-297-8083	自主事業 c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

31.鳥取県	くにの なつき 國野 菜月	公益財団法人とっとりコンベンションビューロー 施設利用担当	米子コンベンションセンター 開館年 1998 年
	No. 17	〒 683-0043 鳥取県米子市末広町294 TEL 0859-35-8111 / FAX 0859-39-0700	多目的ホール 2,004席/1,879㎡ 小ホール 300席/-㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
40.福岡県	おおくら ゆうみ 大藏 佑美	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課 文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ 開館年 1996 年
	No. 18	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町二丁目3番1号 TEL 092-586-4000 / FAX 092-586-4021	大ホール 798席/1,279㎡ 小ホール 118席/208㎡ 多目的ホール 300席/279㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
43.熊本県	いけしま しげのぶ 池島 茂伸	公益財団法人熊本県立劇場 施設サービスグループ 参事	熊本県立劇場 開館年 1982 年
	No. 19	〒 862-0971 熊本市中央区大江2-7-1 熊本県立劇場 TEL 096-363-2233 / FAX 096-371-5246	コンサートホール 1,810席/2,244㎡ 演劇ホール 1,172席/1,761㎡ 自主事業 事業予算

令和4年度ステージラボ
～公共ホール等企画運営ワークショップ～
事業報告書

編集・発行

一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9階
電話 03-5573-4093
ファクシムル 03-5573-4060

発行日

令和5（2023）年4月発行